

SUNALLOMER CSR REPORT

2025

サンアロマーCSRレポート 2025



サンアロマー株式会社

Excellent Company

サンアロマーは、社会に有益で、適正な収益に裏付けられた持続的な発展を追求し続けます！

- ・ 健康・安全・環境(HSE)の改善に取り組む会社
- ・ 品質の良い製品と優れたサービスを提供する会社
- ・ いかなる環境においても、確実に利潤を上げる会社
- ・ 創造性を発揮し、新しい製品や仕組みを産み出す会社
- ・ 現状に満足せず、常にチャレンジする会社
- ・ 社員が誇りと自信を持ち積極的に行動する会社
- ・ 社員全員が経営者の視点で行動する会社
- ・ 高い倫理観を持って行動する会社

CONTENTS

サンアロマーについて.....	4
トップメッセージ	4
事業紹介	5
サンアロマーの取り扱い商品	5
サンアロマーの研究開発	8
企業倫理・コンプライアンス	9
コーポレート・ガバナンス（主な会議体など）	11
CSR	12
CSR マネジメント	12
ステークホルダーとのかかわり	15
レスポンシブル・ケア	18
マネジメントシステム	19
環境への取り組み	20
環境保全	23
保安防災	30
労働安全衛生	35
BCP（事業継続計画）の取り組み	43
品質保証と製品安全管理	44
取引先とのかかわり	47
人権・労働慣行	48
会社情報	52
会社情報	52
財務・非財務データ	54

編集方針

サンアロマーは当社の CSR の考え方や具体的な活動について、ステークホルダーの皆様へ情報共有をする目的で、サンアロマーCSRレポートを発行しています。当レポートでは、環境や社会への配慮をご紹介します。

作成部署

サンアロマー株式会社 環境安全・CSR 推進室
Tel 03-5781-5617

ホームページ <https://www.sunallomer.co.jp/>

報告媒体について

本冊子にはサンアロマーの概要と 2024 年の主なトピックスを中心に掲載しています。

ウェブサイトには本冊子の PDF 版を掲載しています。

報告対象期間

原則として 2024 年 1 月～12 月までを対象としています。が、2025 年 1 月以降の情報も一部含まれます。

「年」と記載があるものは 2024 年 1 月～12 月、「年度」と記載があるものは 2024 年 4 月～2025 年 3 月の範囲を対象としています。

報告対象組織

本文中の記述についてはサンアロマー株式会社を対象としています。

発行

2025 年 8 月

参考としたガイドライン

日化協 レスポンシブル・ケアコード Ver.No:2.0

サンアロマーについて

トップメッセージ

あす
“明日の暮らしを PP で支える”

SunAllomer Ltd.
SOMETHING NEW!

代表取締役社長
高岡 博



サンアロマー株式会社は、製品やサービスの差別化により、長期的な利潤の確保と、持続的な成長を実現します。

具体的には調達・研究開発・製造・物流・販売等の各業務分野において、独自の特長・ノウハウを発揮し、それを積極的に高めていきます。

これにより、お客様に支持される PP サプライヤーとなるよう努め、健康・安全・環境の改善に引き続き取り組みながら、株主、従業員そして当社の事業を育てている社会の期待に応えます。

*PP(ポリプロピレンの略)



事業紹介

最も成長が期待される汎用樹脂 ポリプロピレン(PP)の開発・製造・販売を行う

研究・技術開発

製造

販売



サンアロマー株式会社はクラサスケミカル株式会社、ENEOS 株式会社を株主とする合併会社で、汎用樹脂ポリプロピレンの開発・製造・販売を行っています。

サンアロマーは、他社との差別化を図りながら、独自の特徴・ノウハウを高め、お客様に支持されるサプライヤーとなることを目指します。

サンアロマーの取り扱い商品

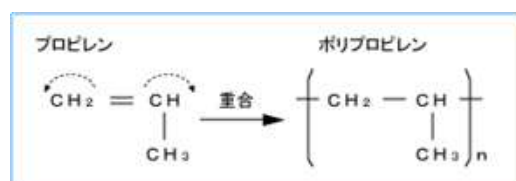
ポリプロピレンとは？

ポリプロピレンはプラスチックの中でも比較的安価でもっとも軽く(密度 0.9g/cm³)、高融点(160℃以上)で成形加工が容易なため、自動車部品、家庭電化製品、食品包装フィルム、玩具、雑貨などの幅広い分野で需要があります。日本では1年間に

230 万トン、世界では 8,600 万トン以上が使用されています。また、リサイクル性が高く、燃やしても有毒ガスを発生しないという環境に優しい性質も併せ持ち、使用用途が拡大している樹脂の一つです。

ポリプロピレンの構造

ポリプロピレンはプロピレンの付加重合によって製造されます。重合には Ziegler-Natta 触媒が用いられています。



ポリプロピレンの一般的な特徴

- ・剛性と耐衝撃性のバランスが優れている
- ・耐熱性が優れている (融点 160℃以上)
- ・密度が低い (0.9g/cm³)
- ・耐薬品性が良好である
- ・湿度水分の影響をほとんど受けない
- ・広範囲な加工適性を有する
 - …中空成形、射出成形、押出成形等
- ・環境応力亀裂(ESCR)に対する耐性が優れる
- ・良好な外観を有する
- ・リサイクル性が高い
- ・燃やしても有害ガスを発生しない



幅広い用途が期待できるサンアロマーのポリプロピレン

ポリプロピレンは一般的に、ホモポリマー、ランダムコポリマー、ブロックコポリマーに分類されます。それぞれ特徴と用途は異なりますが、比較的安価で軽く、成形加工が容易なため、自動車部品や家庭電化製品、食品包装フィルム、玩具、雑貨といった幅広い分野で需要があります。

サンアロマーでは成形品の軽量化・低コスト化に寄与する剛性・耐衝撃性のバランスに優れたゴム成分含有量の高いポリプロピレンを開発し、食品包装分野や自動車分野向けで、多様化するお客様のニーズに応える製品を提供しています。



用 途

・食品用トレイ	・透明折箱	・自動車部品
・食品包装フィルム	・透明ボトル	・プラスチックコンテナ・パレット
・梱包用延伸テープ	・クリーニング袋	・家庭電化製品
・飲料用カップ	・不織布	・家庭用雑貨

バイオマスポリプロピレンの取り組みについて

サンアロマーでは、環境問題への取り組みと社会との共創による持続可能な社会への貢献を目指し、バイオマス由来の原料を使用したポリプロピレン製品の開発・提供に取り組んでいます。

サンアロマーのバイオマスポリプロピレン製品は、バイオマス原料と石油由来原料を混合して使用する製造工程において、「マスバランス方式」を採用しています。この方式は、原料の投入量と製品への割り当てを厳密に帳簿管理することで、製品に含まれるバイオマスの割合を正確に証明する仕組みです。

マスバランス方式を採用することで、既存の製造設備をそのまま活用しながら、環境に配慮した製品の安定供給が可能となります。

なお、サンアロマーのバイオマスポリプロピレン製品は、ISCC (International Sustainability and Carbon Certification) 認証制度の ISCC PLUS 認証に基づき、持続可能性とトレーサビリティが保証されています。

バイオマスとは？

バイオマスとは、サトウキビやトウモロコシなどの再生可能な生物由来の有機資源のことです。これらを原料としたプラスチックは、石油資源の使用量を削減し、CO₂排出量の抑制にも貢献します。

プラスチック製品の薄肉化・軽量化に向けた高機能ポリプロピレンの開発

サンアロマーでは食品包装、食品容器、自動車部品の軽量化・薄肉化が可能なポリプロピレン製品の開発に力を入れており、下記のようにプラスチック使用量の削減に貢献しています。自動車部品の軽

量化は、ガソリン燃費の向上、CO₂排出量の削減への貢献にもつながっております。

サンアロマーはこれからも、環境に配慮した製品開発に取り組んで参ります。

- ・フィルム分野 / コンビニエンスストア向けおにぎり包装 10%の薄肉化
- ・食品容器 / 食品トレイ 5%の薄肉化、ドリンクカップ、ラーメン容器等 25%の軽量化
- ・自動車部品 / デッキサイド、ドアパネル 20%の軽量化、

サンアロマーのポリプロピレン樹脂

サンアロマーは、用途に応じて、様々なポリプロピレンを製造しています。製品の情報は、ホームページの製品一覧よりご覧いただけます。

<https://www.sunallomer.co.jp/products/lineup.html>

クオリア®とは？

クオリア®は、ゴム含有量がブロックコポリマーに比べても極めて高く、高剛性・高衝撃性に優れている上に、従来のブロックコポリマーでは劣っていた透明性をランダムコポリマー並みにまで向上させることに成功しています。特に食品包装分野・自動車分野向けで、多様化するお客様のニーズに応えることができ、例えば食品用途では、冷凍から電子レンジまで対応できる高透明容器を、このクオリア®で新たに提案することができます。さらには、お客様の成型加工品での軽量化・減容化を図れるといった特長を保有しています。

クオリア®の用途例

- ・タッパー容器や柔軟蓋材
- ・冷凍：アイスクリーム容器／ソフトクリームのトップカバー／ケーキのドームカバー／アイスケーキのカットケース
- ・冷蔵：肉類のブリスターパック／チーズや調味料のケース

クオリア®製品の特徴

特徴1 高い透明性を実現

従来の製品に比べより高い透明性を実現。この強みを生かし食品包装分野・自動車分野を中心に幅広い用途での利用を追求していきます。

特徴2 耐寒性耐熱性の高い構造

クオリア®は急激な温度変化に耐え耐寒性と耐熱性を兼ね備えているため、冷凍庫から出した容器をそのまま電子レンジでも使うことができます。マイナス30℃から160℃までの広い温度範囲に対応します。

特徴3 高剛性・耐寒衝撃性に優れる

透明性とのバランスを保持しながら高い剛性を実現。従来製品に比べ、冷凍環境で割れ難い耐寒衝撃性を保ちます。

ここでは、高付加価値製品のひとつであるポリプロピレン「クオリア®」についてご紹介します。



特徴4 低減された白化・破損性

白化・破損性が低減され、傷が目立ちにくく、ヒンジ蓋等の用途に最適です。マイナス 20℃落球テストにて、クオリア®は従来の製品に比べ、ほとんど破損が見られないことがわかります(右図;落球テスト結果)。

特徴5 高光沢で発色性に優れる

顔料を添加した際、深い位置に存在する顔料粒子にも光が反射し、深みのある色を出すことができます。また、顔料粒子に反射する光が多くなることから、同じ色目で顔料を減らすことが可能となり、コストダウンにつなげることができます。



クオリア®は「環境に優しい」高ゴム含有ポリプロピレン

クオリア®はゴム含有量が高く、コストパフォーマンス、リサイクル性に優れます。また環境問題で課題となる軽量化を実現し、LCA の観点からも今後成長が期待できます。

LCA とは？

Life Cycle Assessment の略です。製品開発、原材料、製造、販売、物流、消費、廃棄・リサイクルを含めた投入資源、環境負荷やそれらによる地球や生態系への影響を定量的に評価する手法のこと。

サンアロマーの研究開発



研究開発の基本姿勢

サンアロマーは Excellent Company というビジョンを掲げ、「独自の企業文化」で「高付加価値の創造」と「社会との調和」に取り組んでいます。

長年にわたり蓄積された経験とノウハウを活用

し、お客様にご満足いただける製品を提供していきます。

研究開発の目指す姿

独自の特長・ノウハウを高めていくことによって、お客様に支持されるサプライヤーになることを目指

します。

高付加価値の創造

新しい用途開拓をお客様とともに行うことで、高機能製品、高付加価値製品の開発を進め、期待を超

えるような新たな価値を社会やお客様に提供する製品を開発します。

社会との調和

CO₂排出量の削減や省エネルギー対策等、化学企業として地球環境に配慮した取り組みを進め、社

会との調和を目指していきます。



法令遵守への取り組み

企業として社会からの信頼を得るためには、まず公正性、誠実性が求められます。

サンアロマーは、法令違反の通報を受け付ける社

内・社外窓口(企業倫理ホットライン)の設置やコンプライアンスに関する各種教育などを行うことで、企業倫理の遵守の徹底に努めています。

企業倫理ホットライン

法令遵守の取り組みとして、サンアロマーは法令違反の通報を受け付ける社内窓口を設置しており、全従業員、および主な協力会社従業員が利用できるようになっています。また、外部の相談窓口としてレゾナックグループの契約する弁護士を指定し、

運営しています。社内での法令違反の恐れがある事柄について従業員および主な協力会社従業員は、誰でもこの窓口を通じ問題提起をすることができ、会社はそれに対して対応をとる仕組みになっています。

新入社員への教育

新たに入社、転入した従業員へは、教育ガイダンスに従い、e-ラーニングの必須受講項目を定めて

教育を実施しています。2024 年度入社、転入者全員の教育を完了しています。

コンプライアンス教育(職場トレーニング)

四半期毎に職場内でコンプライアンスに関するディスカッションを行っています。当日参加できなかった従業員は、後日自習および課題を実施することにより、全従業員がトレーニングに参加し、コンプラ

イアンスに対する理解を深めるようにしています。今後も教育レベルの維持・向上に努めて参ります。2024 年に実施した内容は以下のとおりです。

- ・第 1 四半期:e ラーニング「ビジネスと人権基礎研修」の受講
- ・第 2 四半期:「コンプライアンス事例課題」の実施とその職場ディスカッション
- ・第 3 四半期:「ハラスメント相談窓口の大切さを考える」による職場ディスカッション
- ・第 4 四半期:(企業倫理月間活動)e ラーニング「私たちの行動規範の教育」の受講と職場ディスカッション、当行動規範に則り行動する旨の誓約書への署名

企業倫理月間活動

毎年企業倫理月間を設け、各種コンプライアンス強化に関する活動に全従業員が参加しております。

2024 年は e ラーニング「私たちの行動規範の教

育」の受講の他、次のような活動を実施しました。

- ・ 企業倫理月間メッセージの配信(中島 CCQO)
- ・ 『遵法点検』の実施
- ・ 「私たちの行動規範」を遵守することへの『誓約書への署名』
- ・ 「私たちの行動規範」と自らの業務との関連についての『職場ディスカッション』

企業倫理月間 CCQO メッセージ(2024 年 10 月)

10 月は例年どおり、企業倫理月間となります。

法令遵守はもとより「私たちの行動規範」に基づいた倫理的な行動を心掛けてください。

～中略～

本年発覚した大手自動車メーカーでの認証不正問題の中には、法で定められた基準よりもより厳しい条件で試験しているのだから安全上全く問題ないだろう？という解釈から、社内検査手順を独自に設定していた事例もありましたが、当局の見解では、法で定めた基準と手順に相違があるという理由で処分の対象となっています。(厳しい検査を実施していても法に合致していなければ NG。)

サンアロマーの基準・手順は 2014 年に当時の親会社であったライオンデルバセル社のマネジメントシステムである OEMS を導入した際に制定されたものが多数あると思います。法律の改正等により、現行の手順は法に対応できていない可能性もあります。また社会・ビジネス環境が刻々と変化する VUCA (Volatility:変動性, Uncertainty:不確実性、Complexity:複雑性, Ambiguity:曖昧性)と呼ばれる現代、数年前に制定・改定した基準・手順では、現行法律、現状のビジネススタイル(ex.リモート勤務の日常化や新たな IT インフラ導入等)に合致しないことが存在する可能性があります。基準・手順の改定時や遵法点検時には、関連する法律のチェック、および現状の業務に則しているのかチェックの上、改定をお願いします。

本年、内部通報制度が改訂されました。

ある地方自治体では、内部通報制度上の通報者保護が十分ではなかったのではないか、との報道がなされ、制度自体に不安を感じる方もいらっしゃると思います。前回のコミュニケーションセッションでも説明しましたが、(改正)内部通報制度保護法という法律があり、その中で通報者は不利益を受けない様に保護されることになっており、サンアロマーの内部通報制度手順でも、それを十分配慮した仕組みとなっています。もし、コンプライアンス違反や違反が疑われる状況に接したり、認知した場合は躊躇せず上司への報告または内部通報窓口の利用をお願いします。

2024 年 10 月 1 日

CCQO 中島 治継

コーポレート・ガバナンス(主な会議体など)

Management Committee(MC :経営会議)

社長決裁事項の諮問機関であり、会社の施策や重要事項の審議および本部間の情報共有を目的と

しています。

コンプライアンス委員会

広く社会から信頼される企業活動を遂行するためのコンプライアンス体制を構築することを目的とし、全従業員が「倫理に基づく行動」と「法の遵守」を基本におき、良識ある公正な行動が取れるよう

に、基本方針や年度計画を策定し、実施しています。また、コンプライアンスに関する通報・相談を受け付ける「企業倫理ホットライン」窓口を設置し運営を行っています。

レスポンシブル・ケア(RC)委員会

「レスポンシブル・ケアに関する行動指針」を定め、「健康・安全・環境」の継続的な改善を目的に、年

度目標の審議・決定を行い、本社および各事業所で施策の推進を行っています。

省エネ委員会

省エネルギー活動を推進することを目的に、全社が省エネルギーに配慮した事業活動を行うための

体制とその運営を行い、施策の推進を行っています。

安全衛生委員会

安全衛生管理を適切に推進するため、作業安全の確保および職場衛生の向上並びに従業員の健康増進を図るとともに、災害および事故を未然に防

止することを目的に、各事業所に安全衛生委員会を設置し、審議、施策の推進を行っています。

内部監査

社長直轄の内部監査体制を構築し、自社の事業活動に対して統合内部監査を実施しています。また、各事業所においては認証を受けている各種マネジメントシステムにおける内部監査を実施しております。これらは、サンアロマーの内部監査実施基準に基づいて年間監査計画を作成し、内部監査を実施した後、その結果を各マネジメントシステムに

おけるトップマネジメント、及び必要に応じ取締役会、監査役に報告しています。さらに、会計監査人及び監査役とは、それぞれの監査の独立性に配慮しつつ、年間監査計画、監査結果等につき定期的な報告会を通じて意見交換を行う等、相互に連携を図っています。

CSR

CSR マネジメント



CSR 責任者メッセージ

サンアロマーは、社会に有益であり、適正な収益に裏付けられた継続的发展をする会社という理念のもと、50 項目の KPI*を経営指標として設定しています。50 項目のうち、特に重要な指標である、「安全」、「品質」、「環境」、「コンプライアンス」に対しては、重大なインシデントをゼロとすべく GoalZERO というスローガンを掲げ重点管理の対象としています。

「安全」については、事業のすべてに対して優先される事項と位置づけ、以前親会社であったライオンデルバゼル社(世界最大級のポリオレフィンカンパニー)グループの一員として培った世界基準の安全マネジメントシステムをベースとし、現親会社であるクラサケミカル株式会社・ENEOS 株式会社の安全基準を融合した独自の安全マネジメントシステムを構築しています。また設備自体の安全性確保やマネジメントシステムの運用に加え、従業員の行動特性にも着目した安全活動を採用し、さらに高い安全への取り組みを着実に進めています。また、職場環境の改善や時間外労働の抑制を推進し、働き方改革を進めることでより働きやすい労働環境を提供し、労働衛生への配慮を強化しています。

「品質」に対しては、「サンアロマーの事業におけるの本質である」と位置づけ、品質も第一とする経営を行っております。その実現のために、社長を組織のトップとした品質マネジメントシステムを構築し、全社を対象組織とする ISO9001 の認証を取得しております。このシステムにおいて、品質は製造部門だけではなく、製品の開発、原材料の管理、販売、物流を含めた、すべての事業活動にわたるも

のであると定義しています。品質を通じたお客様の満足度を高めるために、測定データの自動取得システムを導入し、偽装・改ざんなどの品質不正を徹底的に排除する仕組みを構築するなど、品質に対する投資を積極的に進めています。

「環境」面への配慮として、不要な反応副産物がなく有害な廃棄物が生成しない、環境負荷の少ないポリプロピレン製造プロセスを採用しております。発生する産業廃棄物は、業界の中でも非常に少ない排出レベルを維持しています。また、製造・物流において発生する CO₂の削減にも積極的に取り組み、地球温暖化の防止に努めております。近年、話題となっているプラスチックごみの問題につきましては、「プラスチック循環利用協会」の会員企業としてプラスチックごみの削減に向けての活動を実施しております。

また、「コンプライアンス」遵守を徹底した経営を進めています。経営理念を具体化する上で従業員が考え行動するための指針としてレゾナックグループが制定した「私たちの行動規範」に基づき誠実に行動し、事業活動を通じて社会に貢献することに努めて参ります。これを真に「私たちの」といえる段階まで理解し行動するために、オリジナルの教育用資料を作成し、年 4 回の教育を全社員対象に行い、コンプライアンス意識の向上に努めています。また、コンプライアンス経営を実現するために、全従業員、協力会社の社員を対象に社内、及び社外の内部通報窓口を設置し、社内で不正を発見し対処する体制を構築しています。

CSR 本部長 兼 CCQO 中島 治継

*KPI: Key Performance Indicator の略で、企業目標の達成度を評価するための主要業績評価指標

CSR 推進体制

サンアロマーでは、CSR 本部を設置し CSR 方針に従い CSR 活動を推進しています。CSR および内部統制に関するリスク管理やマネジメントシス

テムの統括を行い、レスポンシブル・ケア活動、コンプライアンスの推進および品質保証と製品安全管理を中心に活動しています。

CSR 方針

事業活動を通じた SDGs 課題解決への貢献と
「私たちの行動規範」に基づく全社員の行動により
すべてのステークホルダーにご満足いただける
社会貢献企業を目指します

【重要テーマ】

『安全とコンプライアンスを基盤としたリスクマネジメントの深化と
CSR コミュニケーション をもとにした機会の創出による
経済的価値・社会的価値の創造』

- ・技術・製品・サービスの有効活用による、豊かさと持続性の調和する社会創造への貢献
- ・持続可能な社会のため、また製造業の使命としての環境課題への取り組み
- ・国際社会と当社の持続可能な成長に資する人づくり

EcoVadis 社のサステナビリティ評価で『SILVER』を獲得



サンアロマーは、EcoVadis 社(本社:フランス)のサステナビリティ(持続可能性)評価において、今年『SILVER』を獲得しました。

EcoVadis 社のサステナビリティ評価は、「環境」、「労働と人権」、「倫理」、「持続可能な資材調達」の4分野について、国際的な CSR 規格に基づき包括的に評価するものです。EcoVadis 社のデータベース登録企業数は150,000 社以上にのぼり、世界 185 カ国以上、

250 業種以上の企業が評価対象となる中で、弊社は上位 7%という高い評価を受けました。

これまで 5 年連続で「GOLD」を獲得してきたこともあり、より高い評価を目指すことが重要ですが、引き続きサステナビリティの取り組みを強化し、さらなる改善を進めてまいります。

今後も環境に配慮した魅力あるユニークな製品とプロフェッショナルなサービスを提供し、お客様との「協創」を通じて社会の持続的発展に貢献してまいります。

サンアロマーの評価履歴

2019 年	SILVER
2020 年~2024 年	GOLD
2025 年	SILVER

SDGs への取り組み



レゾナックグループは、国連グローバル・コンパクトが定める「人権の保護」、「不当な労働の排除」、「環境への対応」、「腐敗の防止」に関わる 4 分野 10 原則に賛同しており、「人権を尊重した経営」、「環境問題への取り組み」、「社会との共創による持続可能な社会への貢献」、「製品・サービスに関わる安全と安心の確保」、「公正で誠実な取引活動」、「公平で公正な雇用・労働」を「私たちの行動規範」で定めています。

その内容は、2030 年までに、全ての人に普遍的に適用される SDGs の、あらゆる形態の貧困に

終止符を打ち、不平等と闘い、気候変動に対処しながら、「誰も置き去りにしない」ことを確保するという考え方にも一致しています。

レゾナックグループでもあるサンアロマーもこの活動に準拠し、行動規範と SDGs そしてマテリアリティを関連付けることで、サンアロマーの事業を推進します。

以下に SDGs に貢献するサンアロマーのポリプロピレン製品、ポリプロピレンコンパウンド製品、その使用例をご紹介します。

SDGs	貢献分野	私たちの生活とのつながり
5 ジェンダー平等を 実現しよう 	家庭用品	紙おむつ、レトルト食品包装、電子レンジ対応容器などの材料に使用され、家事労働の軽減に貢献しています。
12 つくる責任 つかう責任 	省エネルギー	自動車用内外装材に使われています。軽量化により、燃費向上に貢献しています。
13 気候変動に 具体的な対策を 	自動車等軽量化	自動車用内外装材に使われています。軽量化で CO ₂ 発生量を削減しています。

SDGs とは？

SDGs は、Sustainable Development Goals「持続可能な開発目標」の略称で、2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」文書の中核を成す「持続可能な開発目標」を指します。主な内容は 17 のゴールとその 169 のターゲットから構成され、2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。

「国連グローバル・コンパクト」とは？

国連と民間(企業・団体)が手を結び、健全なグローバル社会を築くための世界最大のサステナビリティイニシアチブです。企業・団体が社会の良き一員として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組み作りに参加する自発的な取り組みです。

社会との対話

一般社団法人日本化学工業協会レスポンシブル・ケア委員会の加盟企業は、化学企業の環境保全などの取り組みを地域の皆様によく理解していただき、交流を深めるために、「レスポンシブル・ケア地域対話」を地区ごとに開催しています。レスポンシ

大分工場

大分工場では、隔年で開催される大分地区「レスポンシブル・ケア地域対話」に参加していますが、地域対話を実施しない年についても地域住民の方との意見交換会(地域対話ミニ集会)に参加していま

ブル・ケア委員会の加盟企業であるレゾナック・ホールディングスの関連企業であるサンアロマーは、大分地区並びに川崎地区で地域対話に参加しています。

す。

2025 年は、2 月に地域対話ミニ集会が開催されました。また、大分工場ではコンビナート周辺の清掃活動を実施しています。



【2025 年 2 月 大分地区「レスポンシブル・ケア地域対話ミニ集会」の様子】



【2024 年 10 月 大分工場周辺道路清掃活動の様子】



川崎工場

川崎工場も隔年で開催される川崎地区「レスポンシブル・ケア地域対話」へ参加しており、2024年1月に開催されました。



【2024年1月 川崎地区「レスポンシブル・ケア地域対話」の様子】

川崎工場は、2016年8月より、環境保安技術の向上を目的に地域企業の有志会社で組織した研究会である「川崎コンビナート環境保安技術研究

会」に参加し活動しております。また、地域の清掃活動として工場周辺道路の歩道のゴミ拾いを行っています。



【2024年6月 川崎工場周辺道路清掃活動の様子】

研究開発本部

研究開発本部では地域の清掃活動を行っています。2024年も近隣歩道の清掃活動を実施してい

ます。



【2024年11月 研究開発本部での近隣歩道の清掃活動の様子】

CSR レポートの発行

2017 年からレスポンシブル・ケアレポートに代わり、すべてのステークスホルダーの皆様に向けた

「CSR レポート」を発行しています。

社員および家族

社内クラブ活動

サンアロマーでは、スポーツや文化活動などを通じて、社内の親睦を図り、コミュニケーション促進のため社内クラブ活動を補助しています。2024 年、サンアロマーFC(フットボールクラブ)は月 1 回程

度のペースで練習会を実施し、大会にも参加しています。また、ゴルフ部も月 1 回のペースで活動を行っています。



【サンアロマーFC の活動の様子】



【ゴルフ部の活動の様子】

レスポンシブル・ケア



サンアロマーは、一般社団法人日本化学工業協会のレスポンシブル・ケア委員会に、株式会社レゾナック・ホールディングスのレスポンシブル・ケア活動関連企業として登録しており、レスポンシブル・ケア活動を柱とする環境・安全活動の推進を行っています。

具体的には、レゾナックグループと一体となってレスポンシブル・ケア活動に取り組んでおり、活動の実行に当たっては、レゾナックグループの「レスポンシブル・ケアに関する行動指針」に従い、年度目標を立てて活動し、活動実績に対し評価、改善を実施しています。

レスポンシブル・ケア(RC)とは？

世界の化学業界では化学物質を製造し、または取り扱う事業者が、化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄に至るすべての過程において、自主的に「環境・安全・健康」を確保して活動の成果を公表し、社会との対話、コミュニケーションを行う活動をしており、この活動を「レスポンシブル・ケア」と呼んでいます。

サンアロマーの「レスポンシブル・ケアに関する行動指針」をご紹介します。

レスポンシブル・ケアに関する行動指針

1. 製品の全ライフサイクルにおいて、安全及び健康を確保し環境保全の観点から、事業活動を継続的に見直すとともに改善に努める。
2. 生産活動において、従来型の環境保全はもとより、原料転換、省エネルギー、廃棄物の削減・再資源化、化学物質の排出量削減等を推進し、地球環境との調和による循環型社会の持続的発展に努める。
3. 新製品開発、新規事業、設備の新設・増設・改造において、安全と健康の確保及び環境保全に配慮する。
4. 安全と健康の確保及び環境保全や環境負荷低減に寄与する研究開発、技術開発を推進し、代替製品・新製品の事業化の推進を図る。
5. 製品や取扱い物質の安全・健康・環境面の影響に関するリスク評価及びリスク最小化を図るとともに、安全な使用と取扱いに関する情報を、ステークホルダーに提供する。
6. 海外事業、技術移転、製品の国際取引において、安全と健康の確保及び環境保全に配慮する。
7. 国際規則及び国内関係法令等を遵守するとともに、国際関係機関、国内外の行政機関等への協力に努める。
8. 安全と健康の確保及び環境保全に関する諸活動に積極的に参加するとともに、社会との対話を深め、理解と信頼の向上に努める。

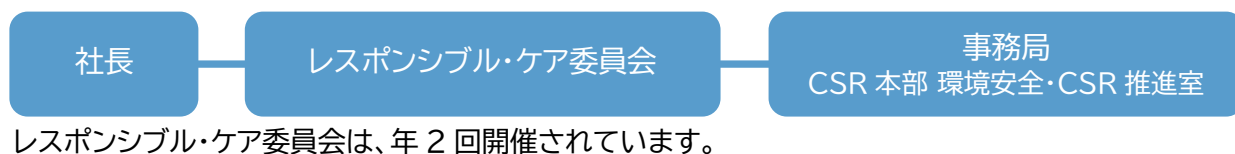
マネジメントシステム

レスポンシブル・ケアを推進するための体制として
規程類の整備、組織の構築、各種監査を実施して

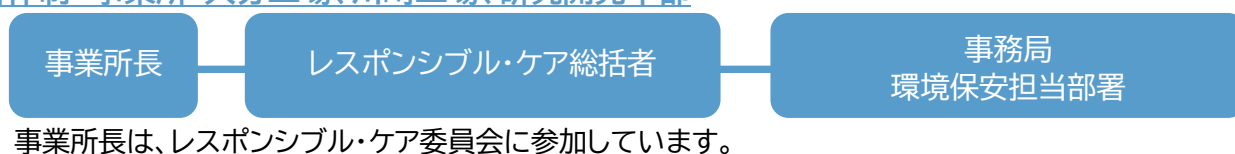
います。
推進体制は下記の通りです。

レスポンシブル・ケア推進体制

本社体制



事業所体制 事業所:大分工場、川崎工場、研究開発本部



統合内部監査

サンアロマーでは、定期的に、統合内部監査として
レスポンシブル・ケアに関する事項も含め内部監
査を本社、各事業所に対して実施しています。

監査は、マネジメントに関する書類監査、従業員

に対するヒアリングを中心に実施されています。

レスポンシブル・ケア委員会では、その結果が報
告され、指摘事項・対策内容の確認やそれらの対応
状況をチェックしています。

株式会社レゾナックによる環境安全監査

2024 年度、川崎工場にて、株式会社レゾナック
による環境安全監査を受審しました。

これは、定期的に行われるもので、重点項目を定
め、レゾナックグループ関係会社からも監査員とし
て参加し、様々な視点から環境・安全・衛生に関す
る監査を行うものです。

2024 年度は、ヒアリング、及び現場確認が実施
されました。監査結果は特に改善事項はなく、軽微
なコメント1件のみでした。これについてはすでに対
応を完了しています。

品質・環境・労働安全衛生マネジメントシステム

品質マネジメントシステム(ISO9001)の認証
は、大分工場、川崎工場、本社・支店・研究開発本部
も含め全社で取得しています。また、環境マネジメ
ントシステム(ISO14001)の認証
は、大分工場、川崎工場、労働安全
衛生マネジメントシステム
(ISO45001)の認証は、大分工場
(2011 年に OHSAS18001 取得、
2019 年に移行)、川崎工場(2018
年)でそれぞれ取得しております。

これらのシステムに基づき、内部監

査を定期的に実施し、計画(Plan)、実行(Do)、評
価(Check)、改善(Act)の PDCA サイクルの実施
状況、システムの有効性の確認も行っています。



環境への取り組み



サンアロマーが製造・販売するポリプロピレンは、私たちの生活に密着した製品に原料として多く用いられ、豊かで快適な生活に貢献しています。

しかし、その製造過程で周囲の環境に悪影響を与えたり、あるいは役目を終えた最終製品が廃棄物として放置されたりして環境問題を起こしては、地球・人々の環境にとってポリプロピレンの有益性は

意味のないものとなってしまいます。

サンアロマーではこのようなことがないように、環境の保護と、市民および従業員の安全および健康の確保を前提として事業活動を進める事が、社会的責務であり使命であるとの基本理念に基づき、下記の項目に重点を置いて取り組みを実施しています。

環境月間

国連では、6月5日を「世界環境デー」と定めており、日本では「環境基本法」(平成5年)で「環境の日」を定めています。サンアロマーにおいても環境について関心と理解を深めるために6月を環境月

間と定めて社長メッセージを配信し、また環境に関する各種施策の進捗確認を実施する等、環境を守ることの大事さを再認識する機会としています。

環境月間 社長メッセージ(2024年6月)

6月は環境月間です。

皆さんはレゾナックグループのパーパス『化学(PP)の力で社会を変える』行動ができていますか？先ずはご自身で胸に手を当てて振り返ってみましょう。

我々サンアロマーは、プラスチックのプロ集団です。

プロとして社会からの期待と社会への責任があります。

PPを製造する工程における環境負荷の低減に始まり、お客様にお届けする配送、更にはPPを使った最終製品における環境への貢献までサプライチェーン全体で「環境」という課題に対応していかなければなりません。

自社内の製造工程における環境負荷の低減は、コンビナート内の企業と共に取り組むことが前提にはなりますが、自らが立案し実行していくことが可能です。

一方で最終製品における貢献(開発)は、お客様との協創が欠かせません。

～中略～

この1年間においても環境対応という言葉の下で新製品が注目を浴び、広がりをみせています。

プラスチックは便利であり、生活に欠かせないものであることは社会も認めています。

その中で「環境にやさしい」プラスチックとはどういうことか、我々が果たすべき行動はますます重要になっていきます。

今一度パーパス『化学(PP)の力で社会を変える』を胸に自信をもって取り組んでいきましょう。

サンアロマー株式会社 代表取締役社長 高岡 博

エネルギー削減

省エネルギー対策を通し、資源の有効利用、地球温暖化防止に努めています。(23～24ページの「CO₂排出量データ」、「工場における省エネルギー

の取り組み」、「物流における省エネルギーの取り組み」に詳細記載)

土壌汚染防止

大分・川崎両工場、研究開発本部は、市が指定する土壌汚染対策法に基づく指定地域に立地していますが、該当する特定有害物質は使用しておりません。施設撤去や土壌改良時には、土壌汚染対策法および自治体の条例に則った、届け出、調査や措置を

実施しております。あわせて施設の床面、付帯配管、防液堤、排水溝管理によって、漏洩による土壌汚染の未然防止に努めております。

尚、2024年度は土壌に関する異常は発生しておりません。

VOC削減

川崎工場では製造段階でのVOC(揮発性有機化合物)の大気への放出を抑制する為、2020年10月にVOC回収設備を設置しました。大分工場につ

いては対策済みです。(25ページの「VOCの排出」に詳細記載)

ゼロ・エミッション

ポリプロピレン製造の過程や研究活動にともない発生する廃棄物については、分別を徹底し、再利用・再資源化に努め、ゼロ・エミッションの達成を目標としてその管理を行っています。

また、一般社団法人プラスチック循環利用協会に加盟し、その活動に参画しています。プラスチック循環利用協会は、廃プラスチックの循環的な利用に関する調査研究等を行い、プラスチックのライフサイクル全体での環境負荷の低減に資するとともにプラスチック関連産業の健全な発展を図り、もって持

続的発展が可能な社会の構築に寄与することを目的に活動しています。私たちはポリプロピレンの最終製品の廃棄・再利用に関しても、責任の一端を担っています。

(26ページの「産業廃棄物のゼロ・エミッション」に詳細記載)

ゼロ・エミッションとは？

サンアロマーは、廃棄物の最終埋立処分量が発生量の0.5%以下の達成を目標としてその管理を行っています。

再生紙の利用促進

リサイクル推進の観点から、全社で再生紙の利用促進に取り組んでいます。

川崎工場はグリーン購入法施行と同時にコピー

紙を再生紙(古紙配合率100%)に切り替えました。研究開発本部と大分工場は2019年半ば、本社は2020年2月から再生紙を利用しています。

水資源の利用

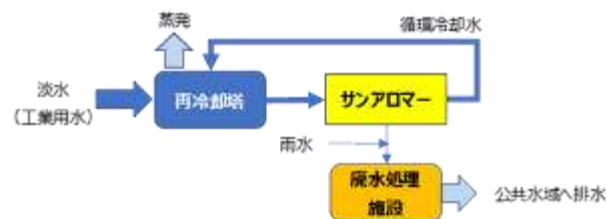
サンアロマーの2024年度の水使用量は合計530.3千トンで、内訳は、工業用水521.3千トン、上水道水9.0千トン、地下水0.0千トンとなっており、それと同等量の排水を行っております。また、循環冷却水を42,236千トン使用しました。製造プロセスには循環式冷却水系を導入しており、水をリサイクルすることで水使用量を大幅に削減しております。

排水に関しては、大分・川崎両工場および研究開発本部は親会社のコンビナートに属しており、親会社の事業所とともに国、県等の排水基準を遵守すべく社内基準を設定し、水質の管理を実施しています。具体例として、大分工場は、コンビナート内の各社とともに水質環境負荷低減に努めており、排水量、pH、TOC*、温度を管理しています。また、川崎

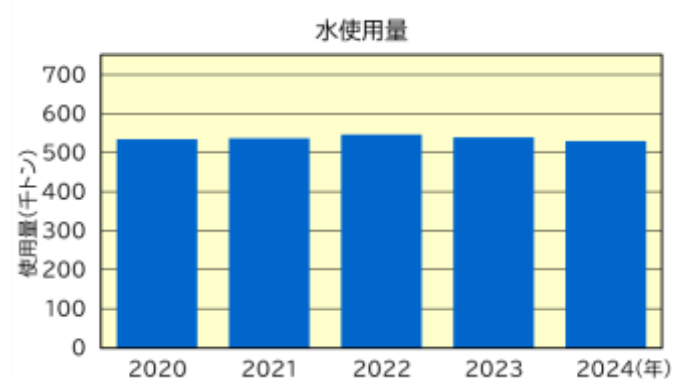
工場においても排水量、COD*、全窒素、全リン、浮遊物質等の管理を行っております。

両工場共、排水施設の適切な運転管理を実施することで排水基準を遵守し、また水の循環利用を最大限活用することで排水量の削減に取り組んでおります。下図に現状の取り組みを示します。

尚、2024年度の排水に関する異常は発生していません。



【両工場 水の循環利用の取り組みの図】



TOCとは？

TOCは、Total Organic Carbon「全有機体炭素」の略称で、水中の有機物の総量を有機炭素の量で示したものであり、有機物による水の汚濁を判定する代表的な指標の一つ。



CODとは？

CODは、Chemical Oxygen Demand「化学的酸素要求量」の略称で、排水中の有機物による汚れを示す指標。水中の有機物を酸化するために必要な酸素量を示したものの。

「ENEOS みらいの森」森林保全活動への参加

2024年5月にCSRボランティアの一環として、ENEOS みらいの森 森林保全活動にサンアロ

マー従業員が参加し、神奈川県「県立21世紀の森」での間伐、竹林整備、杉の枝打ちを行いました。



【保全活動の様子】

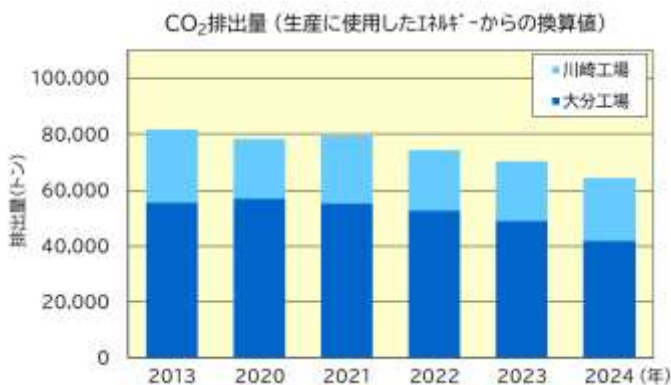


【集合写真の様子】

CO₂ 排出量データ

サンアロマーは省エネ法(エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律)の特定事業所として、また温対法(地球温暖化対策の推進に関する法律)の特定排出者として、これら法に基づき、エネルギーの使用量、省エネ計画の策定、および温室効果ガスの排出量を算定し、国に報告しております。更に、2050年カーボンニュートラルを目標にCO₂排出量削減の取り組みを進めています。

サンアロマーが2024年に工場で使用したエネルギーから換算したCO₂排出量(下図左)と排出量原単位(下図右)を示します。CO₂排出量において、大分工場と川崎工場で大きく異なるのは製品生産量の差異によるものです。

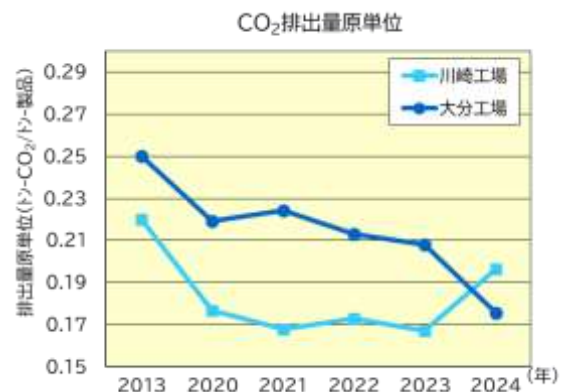


2024年の結果について、サンアロマー全体では、前年比でCO₂排出量を削減することができました。各工場それぞれについて、大分工場のCO₂排出量はCO₂排出係数の低下に伴い改善しており、またCO₂排出量原単位においても改善が見られました。川崎工場は、CO₂排出係数(電気)を見直したことにより、前年度比で悪化しました。

サンアロマーは、生産プロセスの見直しや省エネ活動の推進、設備改造などにより、温室効果ガスの排出量削減に引き続き取り組んで参ります。

CO₂排出量原単位とは？

サンアロマーでは製品のポリプロピレンを1トン生産するときの二酸化炭素の排出量(トン)としている。



工場における省エネルギーの取り組み

CO₂などの温室効果ガスの発生量を抑えること、ひいては環境保全、資源の節約のためには、工場での使用エネルギーを削減することが必要です。

サンアロマーでは、大分工場、川崎工場が「第一種エネルギー管理指定工場」となっており、従前より省エネルギー活動の推進を行っています。

右図に2013年を1.0としたときのエネルギー原単位の推移を示します。新基準値において大分工場は、前年比1%以上の改善を達成しました。川崎工場においては、計画停止工事や生産調整停止によりエネルギー原単位が悪化し、前年比1%改善を達成できませんでした。

尚、2023年からは改正省エネ法によるエネルギー原単位の算出方法変更に伴い、エネルギー原単位の値が低くなっております(図中、「新基準」と



表示してる値が改正後の値となります)。

今後も引き続き運転の信頼性向上、設備改善など、省エネルギーの推進に取り組めます。

エネルギー原単位とは？

サンアロマーでは製品のポリプロピレンを一定量生産する際に消費するエネルギーの量としている。

資源の有効活用と環境負荷低減の取り組み

サンアロマーでは、製品の製造工程において、資源の有効活用と環境負荷の低減を目的とした製造プロセスを採用しております。

製造プロセスでは、反応器に原料を投入し、重合反応を行うことで中間製品を生成しています。この過程で排出される未反応原料については、廃棄せずに回収し、再度原料として反応器へ投入することで再利用しています。これにより、製品収率の向上

を図るとともに、原料使用量の最適化を実現しています。

未反応原料の再利用は、化学物質の廃棄量を削減することにもつながっており、環境への負荷軽減に貢献しています。これらの取り組みは、資源循環型の製造体制の構築に寄与するものであり、持続可能な生産活動の一環として位置づけられています。

物流における省エネルギーの取り組み

サンアロマーは、特定荷主としてエネルギーの使用に係る原単位を年平均1%削減することを目指し、省エネルギーの取り組みを進めてきました。結果は下記のとおりとなります。

2024年の原単位は前年比95.2%と良化しました。使用している船舶(フェリー)の格付け向上、トラックにおける遠距離配送の減少、モーダルシフト

の進展などが原単位向上の要因となりました。引き続き配送距離の短縮などの効率輸送の検討も進めて参ります。

特定荷主とは？

省エネ法で規定された輸送量の多い荷主のこと。

年に一回物流部門の省エネ対策とその期待効果についての計画を国に提出するとともに、エネルギー使用量、エネルギー使用原単位、省エネ取り組み状況、CO₂排出量を報告することが義務づけられています。

項目/年度	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
エネルギーの使用に係る原単位 ※(kl/トン)	0.0152	0.0150	0.0156	0.0151	0.0144
前年度比(%)	102.7	98.7	104.0	96.8	95.2

※ 輸送のためのエネルギー使用量(原油換算)(kl)/販売量(トン)

クロス配送低減による環境負荷軽減

滋賀県を境界線に日本を東西の配送エリアに分けたとき、この境界線をまたぐ配送をクロス配送と定義し、クロス配送を低減するよう努力をしています。

2015年以降は、大分工場のみで生産していた製品を川崎工場でも生産する技術開発を行い、共通生産品の種類を増やしたことで、同一品質の製

品をよりお客様に近い工場から出荷・配送することができるようになりました。これにより工場からの製品配送距離が短縮され、結果的にトラック配送における環境負荷を低減することができました。今後も小口配送の削減を更に進めること、および両工場での共通生産品を増やすことで、トラック配送における環境負荷低減を進めていきます。

九州地区の自動車産業のお客様へ大分工場(九州)から出荷

大分工場はその立地を生かし、九州地区の自動車産業のお客様のもとへ輸送効率を意識した配送

計画を立案・実行することにより、トラック配送における環境負荷を低減しています。

モーダルシフトによる輸送

国内の輸送手段をトラック輸送から、鉄道または海運に転換し、その割合を拡大することに取り組んでいます。環境負荷の低減に加え、エネルギー問題および今後の少子高齢化に伴う労働力問題の解決に資することを目的とし、2016年に現行の RORO 船に加え、内航船コンテナ輸送の起用と JR 鉄道の活用拡大を検討しました。2017年には今まで実施していないエリアで JR 鉄道による顧客への納入を開始しましたが、経済状況などの様々な新

RORO 船とは？

ロールオン、ロールオフの略称で、トラックやトレーラーの貨物をそのまま運べる貨物専用の船のことで、一度に多く運べ、効率が良く、エネルギーが少なく済むなどの利点があります。

たな課題により拡大が難しくなっている状況です。

今後も機会を逃さず継続して取り組み、環境負荷低減に配慮した RORO 船での輸送を主体に、CO₂排出量の削減に努めて参ります。



ランニング包材回収率の向上

製品運搬用の輸送容器(パレット、フレキシブルコンテナバッグ)の回収強化・再利用促進を目的に2013年から包材管理システム(RFIDシステム)を導入し、ランニング包材の出荷から回収までの一貫した管理を開始したことにより回収率を大幅に向上させ、現在も高い回収率を維持しています。

RFIDシステム導入前は紛失・未回収により不足したパレットを追加購入していましたが、回収率が向上したことによりパレットの再利用が促されました。なお、回収後に損傷などにより再利用がで

きないと判断されたパレットについては粉碎し再加工、再利用しています。

フレキシブルコンテナバッグについても回収後に洗浄し、再利用に努めています。

今後も引き続き、資源の循環利用による環境負荷の低減を推進して参ります。

RFIDとは？

Radio Frequency IDentification の略です。サンアロマーでは、無線通信により情報の読み書きを行う非接触型のタグ(RFIDタグ)をパレット、フレキシブルコンテナに装着し、個体識別管理を行っています。

VOCの排出

VOC(揮発性有機化合物)は、大気中に排出されると大気汚染の原因となり、人の健康へ影響を与える恐れがあります。サンアロマーにおけるVOCの大気への排出のほとんどは、川崎工場の設備から製造時に発生するノルマルヘキサンです。その排出量は右図の通りです。

2020年10月に抜本的な改善として設備改造を実施し、VOC回収設備を設置したことにより、2020年11月以降はVOCの排出が大きく減少しました。2022年の一時期、このVOC回収設備の不具合により大気中への排出量が増加してしまいましたが、現在は、故障の原因を解決し、VOC回

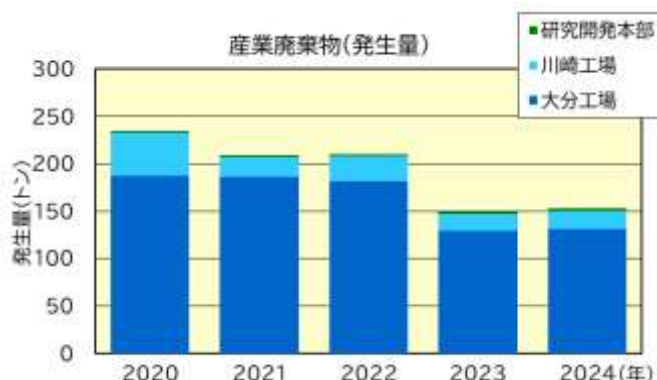
収設備は安定運転を継続しています。



産業廃棄物の発生量

産業廃棄物の発生量の推移を右図に示します。発生量については、年ごとに増減がありますが、大分・川崎両工場、研究開発本部共に、分別収集により、産業廃棄物自体の発生抑制に努めています。大分工場では、廃プラスチックの有効利用化を継続し産業廃棄物の発生量を維持管理しています。川崎工場は、大規模な計画停止工事がありましたが、廃棄物はすべて回収・有効利用することで、埋立量はゼロを継続しています。引き続き、産業廃棄物の有

効利用化を進め、発生量の削減を進めていきます。



産業廃棄物のゼロ・エミッション

産業廃棄物の最終埋立処分率の推移を右図に示します。

産業廃棄物の最終埋立処分量は分別収集、再利用化の徹底により、集計を開始した2020年より5年連続して、ゼロ・エミッションを達成しています。

今後もこのレベルを維持継続するよう引き続き、きめ細かい対応をとっていきます。



SOx、NOx、ばいじん

サンアロマーではSOx(硫黄酸化物)、NOx(窒

素酸化物)、ばいじんの排出はありません。

水銀使用の排除と適正処理

サンアロマーでは、環境負荷の低減と安全な職場環境の確保を目的として、工場における水銀の使用を段階的に排除する取り組みを進めております。これにより、新規設備や照明器具には水銀を含まない製品を採用し、持続可能な生産体制の構築を図っています。

また、過去に使用されていた水銀含有蛍光灯な

どの廃棄物については、廃棄物処理法に基づき「特別管理産業廃棄物」として厳格に管理し、認可を受けた専門業者による適正な収集・運搬・処理を実施しています。これらの処理は、環境への影響を最小限に抑えるとともに、法令遵守の姿勢を明確に示すものです。

PCB 管理

現在製造は中止となっているPCB(ポリ塩化ビフェニル)は、従来の変圧器、コンデンサーや安定器などに使用されていました。サンアロマーでは、こ

れらを適正に処理しており、2024年にも再点検を実施し、PCBが含まれている機器がないことを確認しました。

生物多様性保全への取り組み

サンアロマーの生物多様性の保全に関する活動は、レゾナックグループの「私たちの行動規範」の中に示されている「生物多様性保全への取り組み」に基づき、行われています。具体的には、排水・廃棄

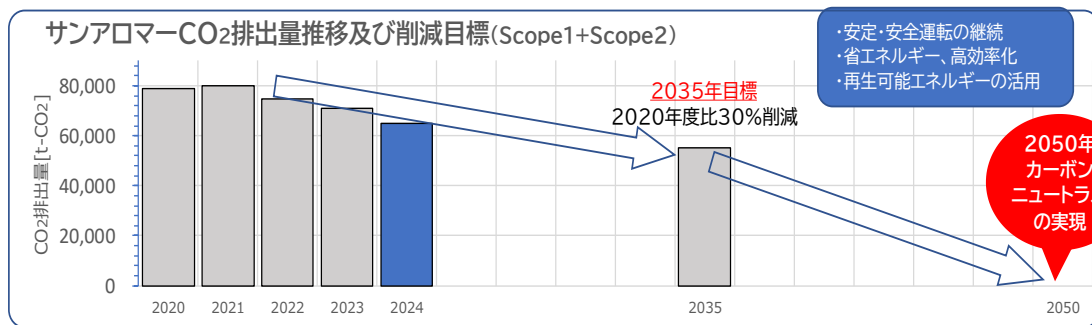
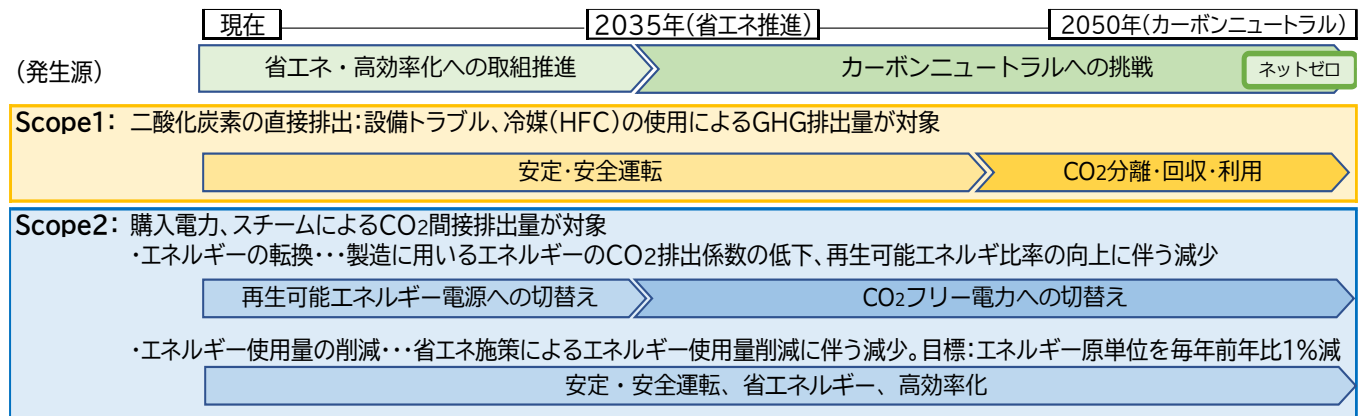
物・化学物質・緑化管理、地域での清掃活動への参加や省エネ・温室効果ガス削減(CO₂削減)活動を行っています。

カーボンニュートラルに向けた対応

サンアロマーは、以下に示す CO₂排出削減ロードマップに基づき CO₂排出削減を目指していきます。Scope1, Scope2 について、立地するコンビナートと協働し 2050 年までにカーボンニュートラル

を目指します。Scope3 についてもサプライチェーンからの CO₂排出量の把握、及び削減の検討を行っています。

サンアロマー CO₂排出量推移、及び削減ロードマップ



Scope3 削減への取り組み

サプライチェーンからの CO₂排出量削減にも取り組んでいます。Scope3 に対しては、自社にて削減施策に取り組めるカテゴリー5(廃棄物)、カテゴリー9(下流物流)の削減を中心に取り組みを進め

ます。また、製品毎に CO₂排出量(CFP:カーボンフットプリント)が算出できる仕組みを構築しています。

ISCC PLUS 認証の取得

サンアロマーは、環境配慮型製品の取扱いを強化するために、2023 年7月に、大分工場、川崎工場ともに、持続可能な製品の国際的認証制度の一つである ISCC PLUS (Processing Unit)認証を取得しました。

これまで、両工場では石油由来原料のみを使用しておりましたが、原料の一部をバイオマス原料に置き換えることが可能となり、この取り組みは、持続可能な原料の社会での実用化、カーボンニュートラルに向けた循環型社会形成につながるものです。

ISCC PLUS 認証取得により、バイオマス原料を一部使用する製品に対して、認証制度に基づくマスバランス(物質収支)方式によって、バイオマス原料由来の持続可能特性を割り当て、販売することが可能となりました。

ISCC PLUS 認証は、サンアロマーだけでなく、バリューチェーン全体におけるお客様の持続可能性の目標達成にも役立つと確信しており、継続的な取り組みを進めてまいります。

LCI データ更新活動

サンアロマーは、一般社団法人プラスチック循環利用協会の会員となっています。

本協会の目的は、「廃プラスチックの循環的な利用に関する調査研究等を行い、プラスチックのライフサイクル全体での環境負荷の低減に資するとともにプラスチック関連産業の健全な発展を図り、もって持続的発展が可能な社会の構築に寄与する」としています。

サンアロマーはこの目的に賛同し、プラスチック

循環利用協会の会員として、近年社会的なニーズが高まっている LCI(Life Cycle Inventory)データの 20 年振りとなる更新活動に参加しました。

LCI データは製品のライフサイクル(製造、使用、廃棄)の各工程で消費された資源、エネルギー量、各種環境負荷項目の排出量を定量的に評価したものであり、LCA(Life Cycle Assessment)を実施するための基礎データとなります。

化学物質の漏洩検知と拡散防止

危険物の漏洩拡散防止

サンアロマーは、危険物の貯蔵、または取扱施設においては、消防法の技術上の基準に従い、排出源の囲い込みや装置の密封性を確実なものとするための措置を講じ、危険物の系外への漏洩防止に努めています。



【川崎工場 防液堤】

化学物質漏洩の早期検知

工場では、危険物や高圧ガスなどの化学物質を取り扱っており、これらの物質が漏洩した場合には、作業者の安全や周辺環境に重大な影響を及ぼす可能性があります。そのため、万が一の事態にも迅速かつ的確に対応できるよう、法令で定められたガス検知器に加え、サンアロマー独自の基準に基づく自主設置の検知器も導入し、漏洩の早期発見体制を強化しています。これらの検知器は、危険物や高圧ガスを取り扱うエリアに重点的に配置されてお

り、常時監視を行っています。また、ガス検知器は定期的に点検・校正を実施し、常に正常に作動する状態を維持しています。これにより、検知精度の確保と信頼性の向上を図っています。

検知器による異常検知時には、速やかに関係部署へ通報され、事前に定めた緊急対応手順に従って対応が開始されます。これにより、被害の拡大を防止し、作業者の安全を確保します。

環境対策投資金額

環境改善のための投資金額(大分工場、川崎工場)の推移は右図の通りです。

主な環境対策として、2020 年 10 月に川崎工場における大気への VOC 排出量の大幅な削減を目的に『スチーマー排出ガス処理設備』を設置しました。これにより 2020 年 11 月以降は大幅な VOC の大気排出の削減を達成しています。2024 年は大分工場の環境対策投資はありませんでした。川崎工場は 2022 年から照明の LED 化を順次開始しており、全面切り替えに向け、毎年継続して推進しています。また、GHG(Green House Gas: 温室効果ガス)削減投資の推進のため、レゾナックグループでは 2020 年から設備投資に対して、社

内炭素価格(ICP: Internal Carbon Pricing)を導入しました。この制度の活用により更なる GHG 削減を進めて参ります。



大分工場

サンアロマーの大分工場は大分石油化学コンビナート内に所在しており、各種設備を構成各社にて共同利用しています。本コンビナートは、サンアロマーを含めた構成各社により、排水・大気・臭気・騒音に関して、24 時間常時監視が行われています。環境測定は定期的を実施しておりますが、異常値が検

NOx とは？

有害大気汚染の指標。燃料や廃棄物燃焼時に空気中などの窒素が酸化して発生する。光化学スモッグの原因になるともいわれている。

川崎工場

サンアロマーの川崎工場は ENEOS 株式会社川崎製油所川崎地区(千鳥)内のコンビナートに所在しており、各種設備を構成各社にて共同利用しています。本コンビナートは、サンアロマーを含めた構成各社により、排水・大気に関して 24 時間常時監視をしており、臭気・騒音については、日々のパトロー

ルの他に年に一度定期測定を実施しております。もし異常が検知された場合は、直ちに状況を確認し、必要な措置を行います。また、共同設備から大気中に排出される NOx、SOx などのばい煙をリアルタイムで測定し、これらのデータは大分市のテレメーターシステムに自動送信されています。

SOx とは？

有害大気汚染の指標。硫黄を含む燃料を燃焼する場合に発生する。呼吸器系に影響がある。

ルの他に年に一度定期測定を実施しております。もし異常が検知された場合は、直ちに状況を確認し、必要な措置を行います。また、共同設備から大気中に排出される NOx、SOx などのばい煙をリアルタイムで測定しています。

保安防災



安全についての基本理念を次のように定め、これに基づき保安確保のための諸施策を展開しています。

安全の基本理念

企業活動における安全の確保は、経営の基盤をなすものであるとともに、企業に課せられた必須かつ重大な社会的責務である。したがって、生産活動およびその他全ての活動においては、安全確保を最優先のものとして、関係する諸法規を遵守するとともに、事故・災害を未然に防止し、もって、従業員の生命ならびに生産施設を守り、地域・公共の安全を確保しなければならない。

保安管理方針

保安確保についての基本方針は前述の「レスポンシブル・ケアに関する行動指針」の通りですが、大分工場および川崎工場の「保安管理方針」をご紹介します。

大分工場保安管理方針

1. 完全無事故・無災害を目指し、安全を最優先とする。
2. 保安に関する法規制等ならびに社内基準を遵守し、保安管理レベルの向上に努める。
3. 保安管理の目標及び計画を設定し、定期的に見直し、保安管理システムの継続的改善を図る。
4. 保安に影響を与えるリスクの低減、変更管理を推進し、事故の予防に努める。
5. 保安活動を効果的に推進するため、教育・訓練を実施し、保安意識の高揚に努める。
6. 事業活動を通じて、関係官庁・地域住民とのコミュニケーションを図り、従業員・協力会社従業員と地域社会の安全を確保する。

川崎工場保安管理方針

サンアロマーの保安管理の基本方針である『レスポンシブル・ケアに関する行動指針』を踏まえ、川崎工場は、保安管理方針を定めて保安確保を徹底する。

1. 安全確保
無事故・無災害を目指し、安全を確保する
2. 関係法令、要求事項等の遵守
保安に関する関係法令、特定要求事項ならびに全社、工場で定めた規程類を遵守し保安管理レベルの向上に努める
3. リスク評価の推進ならびにリスクの低減
保安管理に影響するリスク評価およびリスク管理の充実を図り、リスク低減を積極的に進め、また、変更管理徹底により事故の未然防止、安全・安定操業に努める
4. RC 活動への積極的参加ならびにシステムの継続的改善
『川崎工場 RC 行動計画』を策定し、諸活動に積極的に参加すると共に、これを継続的に見直し、システムの改善を図る
5. 教育・訓練を通じた保安意識の向上
教育・訓練を通じ工場内の全ての就業者の保安意識の向上に努める
6. ステークホルダーとのコミュニケーションの充実
事業活動を通じて、関係諸官庁、地域住民とのコミュニケーションを図り、従業員・協力会社従業員と地域社会の安全を確保する

自主保安の推進

大分工場、川崎工場は高圧ガス保安法に基づく認定保安検査実施者および認定完成検査実施者として経済産業大臣により4年連続運転の認定を受けています。

両工場については、高圧ガス保安法に基づいた

本社による監査を実施し、検査管理組織および工場が経済産業大臣の定める基準に沿って保安管理システムを確実に運用しているかを確認しています。

サンアロマーの安全文化

保安防災管理体制は、クラサスケミカル株式会社、ENEOS 株式会社の安全基準を融合した独自の安全マネジメントシステムを構築し、高い水準を維持しています。今後も安全活動には終わりが無い

と認識し、クラサスケミカル株式会社、ENEOS 株式会社とも連携し、継続して対策を進めて参ります。以下に、これまで実施した例を示します。

プラント爆発事故対策

万が一プラントで爆発事故が起きたときに備えて、爆風シミュレーションを行い、その結果に基づく

対策を行っています。

大分工場の計器室の耐爆風対策

耐爆風計器室コンクリートの壁は、「400mm」の厚みがあり、また、耐爆扉も銀行の金庫の扉に匹敵

する厚さとなっており、爆風に対して十分な強度があります。



川崎工場の計器室と事務所の耐爆風対策

従来のコンクリート建屋の周りに、耐爆風壁を設

置しています。



地震・津波対策

大分工場の設備は、 $0.6 \leq I_s$ (ほぼ倒壊リスクなし) を耐震基準としており、これを満たしていない設備は、計画的に補強工事を実施しています。具体的には、製品倉庫の耐震補強の工事を実施しており、2026 年完成予定です。

また、津波対策として、重要電気設備の水没を防止すべく、2022 年に防潮堤の設置を完工しています。



【電気設備の防潮堤】

安全・防災への投資

設備・操業における安全確保のための投資を継続的に行っています。右図のように大分、川崎両工場への安全・防災対策の投資金額、設備メンテナンス費用はここ数年高いレベルで推移し、安全・防災対策投資は主に設備の老朽化・事故防止対策(爆発・火災・漏えい)に向けられています。

2024 年の大分工場は、安全対策、作業環境改善を中心に設備投資を実施しました。

川崎工場では、設備災害防止、作業環境改善を中心に設備投資を実施しました。



防災・防火訓練

各事業所では、様々な異常事態を想定し各種訓練を実施しています。

練を実施しています。

大分工場

2024 年も、大分石油化学コンビナート全体及び大分工場で様々な想定による各種訓練が行われました。

- ・サンアロマー防災訓練: 1 月
- ・コンビナート総合防災訓練: 4 月、11 月
- ・コンビナート緊急通報訓練: 5 月、11 月
- ・コンビナート地震・津波避難訓練: 9 月

(コンビナート総合災害訓練実施)

大分石油化学コンビナート全体では年 3 回の総合防災訓練が行われています。これはプラント災害発生時において、コンビナート非常対策組織が機能することを確認するためのものです。大きな問題はなく終了しましたが、訓練での不具合事項等について対策を実施し、災害発生時に適切に対応できるように準備を進めています。



【サンアロマー防災訓練(2025 年 1 月実施)の様子】

川崎工場

川崎工場でも、2024 年も様々な異常事態を想定し、防災訓練を実施しました。

- ・総合防災訓練:12 月
- ・放水訓練:5 月、7 月
- ・緊急通報訓練:7月、11 月



【総合防災訓練の様子】

- ・計画停止工事時避難訓練:9 月
- ・地震津波訓練:2 月
- ・緊急処置訓練:1 回/年
- ・放水銃使用訓練:1 回/年
- ・ブラインド訓練:1 回・班/年



【放水訓練の様子】



【計画停止時避難訓練の様子】



【放水訓練の様子】

研究開発本部

ENEOS 株式会社川崎製油所と合同で 2024 年

本社

本社が入居しているビル全体での防災・防火訓練に年 2 回参加しています。2024 年の訓練で

- ・避難訓練:5 月、11 月

11 月に水消火訓練を実施しました。

は、非常階段を使用した避難訓練に参加、実施しました。

高圧ガス新認定制度におけるサイバーセキュリティ対策の取り組みについて

2023年12月の高圧ガス保安法改正により、「認定高度保安実施者制度」(新認定制度)が創設され、サイバーセキュリティ対策が新たな認定要件として追加されました。

サンアロマーでは現在、大分工場、川崎工場ともに「高圧ガス認定保安実施者」の認定を受けており

ますが、今後新認定制度への移行を踏まえ、また重要インフラの一翼を担う企業として、サイバーセキュリティの強化を経営課題と位置づけ、石油化学工業協会のガイドラインである「石油化学分野におけるサイバーセキュリティガイドライン」に準拠した、体制の構築を推進していきます。

主な取り組み内容(PDCA サイクルに基づく)

Plan(計画):

情報セキュリティ基本方針の策定と文書化
リスクアセスメントや教育の計画

Do(実行):

対象システムに対するリスクアセスメント
社員教育の実施

Check(評価):

定期的な内部監査の実施

Act(改善):

評価結果に基づく対策の見直しと継続的改善

サンアロマーの情報セキュリティ方針をご紹介します。(クラサスケミカルグループの方針を適用)

情報セキュリティ方針 (クラサスケミカルグループ)

クラサスケミカルグループは

- 社会の基盤を支える製品やサービスを提供する中で、情報セキュリティの確保が事業活動の持続可能性と信頼性を支える重要な要素であると認識し情報セキュリティに取り組みます。
- 国内外の関連法令や規制、社内規程類を遵守し、高い倫理観をもって情報セキュリティに取り組みます。従業員の情報セキュリティの意識向上を図るとともに、必要な教育・訓練を継続的に実施します。
- 製品、サービスに関わる情報や重要インフラ、サプライチェーンの情報セキュリティについて、定期的に管理体制や対策実施状況の評価を行い継続的な改善を実施します。万一セキュリティ事故が発生した場合の対応体制を確立し、関係する組織との情報共有を行い迅速かつ適切な対応ができる仕組みを整備します。

安全実績

サンアロマーは、「全ての事故は避けられるものである」と信じ安全活動に取り組んでいます。

この信念の下、各事業所ではヒヤリハット活動・5S活動・危険予知活動などの日常の活動、教育訓練、安全標語の募集など、さまざまな安全活動を実施しています。

「GoalZERO」のスローガンのもと、毎年7月の「全国安全週間」には、MCメンバー(社長、副社長、各本部長)の安全メッセージを電子メールで全従業員に配信、周知しています。

員に配信、周知しています。

ヒヤリハット活動では、提出件数とともに発生したヒヤリハットに対してリスクアセスメントを行い、適正な処置や対策を講じて、リスクの軽減に努めています。

また、協力会社とも定期的に安全会議等を開催し、事故防止のための取り組み(安全監査の実施、協定書による安全管理、安全活動の規定)を推進しています。

災害記録

労働災害は、2023年の休業災害以降発生しておらず、2024年下期に190万時間連続無災害を記録しています。

設備災害は、2023年の工場内火災事故以降は発生しておりません。

尚、事業所別では川崎工場が2024年下期に210万時間連続無災害を記録し、数々の表彰を受けています。

引き続き、関係会社並びに協力会社の皆様のご協力と共に全員参加の安全活動を行って参ります。

災害件数(2020~2024年)					
種別/発生年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
労働災害(休業)※	0	0	0	1	0
設備事故	1	0	0	1	0

(※従業員、常駐・非常駐協力会社員計)

川崎工場 神奈川県高圧ガス火薬類保安大会「優良製造保安責任者会長賞」受賞

2024年10月に神奈川県で行われた高圧ガス火薬類保安大会において、製造本部川崎工場製造グループの嘉山さんが優良製造保安責任者会長賞を受賞しました。この表彰は、長年にわたり高圧ガス製造設備の運転・管理に従事し、保安確保に尽力した個人を表彰するものです。受賞の基準は以下であり、業界内でこれら活動が評価され、認められたものです。

- ・高圧ガス保安法などに基づく責任者・管理者として、5年以上の経歴を持ち、3年以上責任ある立場で功績があること。
- ・職場での保安管理において、責任感が強く、他の模範となる人物であること。
- ・所属職場で重大な事故が発生していないこと。
- ・保安教育や訓練の実施、日常点検、不備事項の改善などに積極的に取り組んでいること。

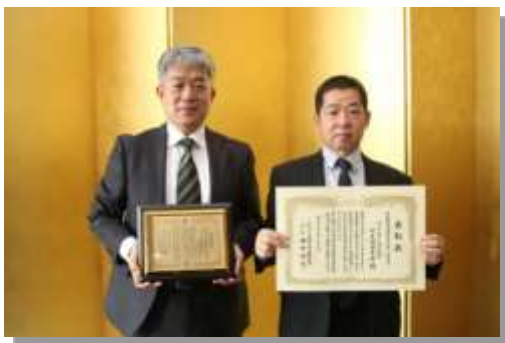


【表彰式授与の様子】



【表彰状を手にする嘉山さん】

日本化学工業協会「安全優秀特別賞」受賞



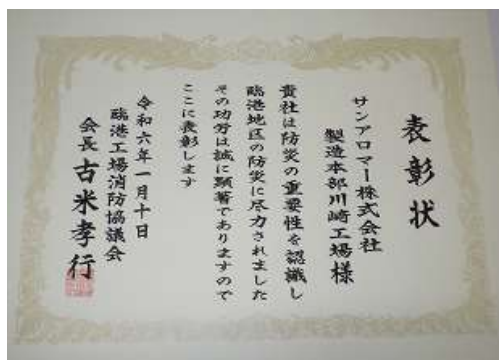
【(右)坂本研究開発本部長(当時)】

2024年5月に研究開発本部が一般社団法人日本化学工業協会より、安全優秀特別賞を受賞しました。これは、化学業界における自主的な保安・安全衛生の推進の一環として、優れた安全活動を実施し模範となる事業所を表彰するもので、無災害記録時間185.9万時間、無災害年数24年7カ月を達成し、2018年から6年連続で無災害事業所認定(区分-1:従業員100人未満で10年以上の無災害が対象)が評価されたものです。

川崎工場 臨港工場消防協議会「防災貢献優良事業所」受賞

川崎工場は、2024年1月に臨港工場消防協議

会から「防災貢献優良事業所」を受賞しました。



【表彰状】



【表彰会場の様子】

臨港工場消防協議会とは？

臨港消防署管内における工場火災を未然に防止し、斯業の健全な発展と公共の安全を確保することを目的とし、本会の目的に賛同する会社、工場をもって構成され、目的を達成するため、臨港消防署指導のもとに各種事業活動を行っています。

川崎工場 関東高圧ガス保安団体連合会「優良製造所 会長表彰」受賞



【表彰式授与の様子】

川崎工場は、2024年7月に関東高圧ガス保安団体連合会から安全に対する優良製造所として「会長表彰」を受賞しました。この表彰は、関東地域において高圧ガスの製造・管理に関する保安活動に長年取り組み、模範的な保安体制を維持している事業所を表彰する制度です。

全国安全週間

サンアロマーは、毎年「全国安全週間」にあわせて6月1日から6月30日までを準備期間、7月1日から7月7日を「全国安全週間」として、さらなる安全活動の活性化を図り、「安全は最優先であ

る」ことを全員で共有し、事故災害の未然防止に努めています。各事業所では様々な活動を実施しており、サンアロマー全体の活動として以下の活動を行いました。

- ・MCメンバーからの安全に関するメッセージ配信
- ・安全セミナーの開催
- ・全社員へ「私の安全宣言」の再確認(宣言内容再認識、未実施者への参加依頼)

全国安全週間（MC メンバーからの安全に関するメッセージ配信）

毎年この時期にあわせて MC メンバーから全従業員に安全に関するメッセージを配信しています。

そのメッセージの一部を以下にご紹介します。

高岡社長

皆さん、「ご安全に」

この言葉は会議前や作業前に掛け声として使われています。

「ご安全に」を発することで身が引き締まり、安全への意識が高まっていますか？

逆にいつもの慣わしになっていませんか？

昨年もメッセージに記しましたが、人は時間と共に「慣れ」が身に付き、異常なことや危険なことも意識しなくなることがあります。

日頃の業務活動においても毎日同じことの繰り返しのようにもみえても職場環境は天気のように毎日変化しています。また、人も人の数だけ異なるものであり、見え方も感じ方も同じとは限りません。

だからこそ皆さん一人一人が気づいたこと、ヒヤリとしたことを仲間と早く共有して速く危険を摘み取り、みんなで職場の安全を築いていかなければなりません。

また、「安全はすべてに優先する」とよく言われています。

このことは工場・現場に限ることなく、誰もがいつでも、どこにいても心がけておくべきものです。

今日も笑顔で『ご安全に！』

杉本副社長 / サプライチェーン本部長

我々の日常、身の回りには多くのリスクが存在しますが、我々は日頃から無意識のうちにリスクをアセスしながら、リスクを回避あるいは低減する行動をとっています。

また工場や研究所などでの業務のように、日常よりも多くのリスクがある場所での活動では、予見されるリスクに対して注意喚起するなどによってリスク回避を図っています。

一方でそのリスクを回避・低減する行動は、「慣れ」あるいは、「疲れているとき」や「慌てているとき」などに注意力が散漫になった場合に十分に機能しないことがあります。

“Slow and steady wins the race！”（急がば回れ）

常に慌てずゆっくり慎重に、安全最優先で行きましょう。ご安全に！

正木取締役 / 製造本部長

サンアロマーでは、昨年から本年にかけて計5件の休業・不働災害が発生し、その度に GoalZERO が途絶えています。これらの労災の共通的な課題として、「災害が発生するまでその危険に気付いていないこと」が挙げられます。気付いていないために対策が講じられていなかったのです。サンアロマーでは、ヒヤリハット等で提起された危険に対して、必要な対策を講じるリスクアセスメントの仕組みが整備されています。このリスクアセスメントの対象に取り上げていけば、上記労災の発生は抑えることができたのではないかと考えています。

本年の全国安全週間のスローガンの1行目の「危険に気付く」ことが非常に重要です。自分や同僚が行っている作業について、様々な視点から危険がないか考える意識を持ち、気付いた危険を必ず提起して、リスクアセスメントの仕組みを機能させましょう。最近の労災のもう一つの課題として、協力企業従業員の災害が多いことが挙げられます。協力企業の皆さんも我々の同僚として捉え、リスクアセスメント活動を通して協力企業の労災の発生リスクも低減して行きましょう。

従業員全員が「危険に気付く」意識を高め、気付いた危険に真摯に対応していくことが GoalZERO を継続するポイントだと考えています。ご安全に

全国安全週間（安全セミナーの開催）

サンアロマーでは、毎年 7 月の全国安全週間に合わせ、従業員向けの安全セミナーを実施しています。2024 年は 7 月に安全セミナーとして、全国的に転倒や腰痛に起因する死傷災害が増加している状況を踏まえ、「肩こり・腰痛改善セミナー」を株式会社アドバンテッジリスクマネジメント 健康運動指導士 柏戸千絵子 様を講師に迎え、ご講演いただ

きました。内容は、座学に加え講師による腰痛チェックや腰痛解消のための実技を行うことで、隙間時間を利用し、腰痛を解消、予防するものとなりました。セミナーは、ライブ配信に加え、録画でも配信し聴講してもらうことで、全従業員（派遣社員を含む）240 名中 106 名が受講しました。

私の安全宣言

サンアロマーでは、2023 年より「私の安全宣言」活動を行っております。年末に次年度の安全活動に関し、各人取組む内容、特に意識して守る点を宣言し、これにより一年間、日々の生産活動の中で安全意識を高め、事故・災害を未然に防止することを目的としています。また、活動を実施し、その年度末(12 月)に 1 年間の活動について自己評価を行い、上司に提出します。上司はコメントを記入して

活動に関するフィードバックをすることにより、安全活動に関するコミュニケーションを図るということも重要なポイントとなります。作成した「私の安全宣言」については、事業所単位で掲示や社内イントラネットのわかり易い場所で誰もがすぐに確認できる状態にしています。以下に MC メンバーの「私の安全宣言」を掲載いたします。



橋本営業本部長

心の安全、体の安全を第一に営業本部員の皆さんが笑顔で過ごせることを約束します。



杉本副社長 兼サプライチェーン本部長

“Slow and steady wins the race !”
常に慌てずゆっくり慎重に、安全最優先！



正木取締役 兼製造本部長

安全最優先の意識を、製造本部の皆さん全員に浸透させます！



坂本研究開発本部長

試験・評価機器の安全性向上に積極的に取り組みます。



高岡社長

従業員が健康であり、安全がすべてに優先する意識を一層高めるようにする。



南条工場長(大分工場)

工場の皆さんとともに、常に安全に働ける職場環境づくりを行います



安村経営管理本部長

安全がすべてに優先される職場づくりを目指します！



加藤常勤監査役

常に安全を「意識」します。



中島 CSR 本部長

災害ゼロを目指して、全社一丸となって安全活動に取り組みます。



椋木工場長(川崎工場)

工場従業員及び協力会社の皆様全員が怪我をすることなく、事故を起こさない職場風土を醸成していきます！

安全活動の紹介

各工場では、以下の安全活動を行い、労働安全衛

生に努めております。

安全実技体験研修の実施

大分工場では、労働災害の“怖さ”を実際に体験してもらうため、体感教育を推進しています。株式会社レゾナック大分コンビナート(現クラサスケミカ

ル株式会社大分コンビナート)で開催される安全実技体験研修に、サンアロマーの従業員も参加しています。

安全活動の表彰

川崎工場では、安全安定運転に貢献した従業員に対し安全活動表彰を実施しています。

昨年度は、2024年7月と2025年3月に実施しました。



【安全表彰・ヒヤリハット表彰式の様子】



【工場長表彰式の様子】

騒音管理と作業者の安全確保への取り組み

サンアロマーでは、工場内における騒音による健康影響を防止し、すべての作業者が安全かつ快適

に働ける環境を整備するため、以下のような騒音管理対策を実施しています。

耳栓の常時着用の義務化

工場の製造エリア全体において、作業者には耳栓の着用を義務付けており、日常的な騒音からの聴覚保護を徹底しています。

高騒音区域でのダブルプロテクションの導入

特に騒音レベルが高いとされる区域については、区域の出入口に注意喚起の表示を設置するとともに、耳栓に加えてイヤーマフの着用を義務付ける

「ダブルプロテクション」を採用しています。これにより、より高いレベルでの聴覚保護を実現しています。

騒音作業の明確化と作業手順への反映

騒音が大きいとされる特定の作業については、あらかじめ作業内容を指定し、防音保護具の着用を作業手順書に明記しています。これにより、作業者が適切な保護具を確実に使用できるようにしています。

今後も、定期的な騒音測定や作業環境の見直しを通じて、さらなる安全性の向上と作業者の健康維持に努めてまいります。

計画停止工事の実施

大分工場

2024年2月～4月にかけて、計画停止工事が実施されました。今回も無事に垂直立ち上げを達成することができました。協力会社の皆様にはこの場

をお借りして厚く御礼申し上げます。ご協力の程ありがとうございました。

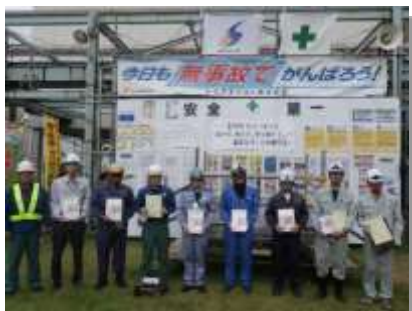


【計画停止工事 朝礼の様子】

川崎工場

2024年9月から10月にかけて4年に一度の大規模な計画停止工事を実施し、各協力会社の皆様のご協力により、無事故・無災害・無公害で完遂することができました。

また、この計画停止工事においては、各施設の修繕の他にも、安全、環境、品質維持向上のための改造工事も実施しました。



【計画停止工事の安全表彰の様子】

【計画停止工事の様子】

物流における安全管理

2024年には、3PL(3rd Party Logistics)体制のもとで物流の安全管理体制の維持・向上を目的とした物流監査を、大分工場、川崎工場のそれぞれの場内倉庫および契約倉庫4ヶ所で実施しました。また契約倉庫および輸送会社におけるヒヤリハットを用いた安全活動の結果、2024年は455件のヒヤリハットが報告され、全てに関して処置を完了しています。

さらにレゾナックグループにおける事故事例を関係する物流会社の方々と共有し水平展開すること

で、国内物流における事故防止に取り組んでいます。



【物流監査の様子】

パートナーシップ構築宣言



サンアロマーは、2022年2月に経団連会長、日商会頭、連合会長及び関係

大臣(内閣府、経産省、厚労省、農水省、国交省)をメンバーとする「未来を拓くパートナーシップ構築推進会議」において創設された「パートナーシップ

構築宣言」の趣旨に賛同し、サンアロマーの「パートナーシップ構築宣言」を公表しました。サンアロマーは、この宣言の下、サプライチェーン全体での付加価値向上に努めて参ります。

「パートナーシップ構築宣言」とは？

サプライチェーンの取引先や価値創造を図る事業者の皆様との連携・共存共栄を進めることで、新たなパートナーシップを構築することを、企業の代表者の名前で宣言するものです。

イエローカード

一般社団法人日本化学工業協会が推進しているイエローカードについて、2019年より運用を開始しています。これは、化学物質や高圧ガス輸送時の万一の事故に備え、運転手や消防・警察などの関係者が取るべき処置を書いた緊急連絡カードのこと

であり、輸送中は常時携帯するものとなっています。



「ホワイト物流」推進運動 持続可能な物流の実現に向けた自主行動宣言

ホワイト物流は、物流業界の働き方改革ともいえる運動であり、その実現には荷主のコンプライアンスが重要になっています。サンアロマーはこの運動の趣旨に賛同し、2019年9月に自主行動宣言を行い、以下のように取り組んでいます。

(取り組み方針)

事業活動に必要な物流の持続的・安定的な確保を経営課題として認識し、生産性の高い物流と働き方改革の実現に向け、取引先や物流事業者等の関係者との相互理解と協力のもとで、物流の改善に取り組めます。

(法令遵守への配慮)

法令違反が生じる恐れがある場合の契約内容や運送内容の見直しに適切に対応するなど、取引先

の物流事業者が労働関係法令・貨物自動車運送事業関係法令を遵守できるよう、必要な配慮を行います。

(契約内容の明確化・遵守)

運送および荷役、検品等の運送以外の役務に関する契約内容を明確化するとともに、取引先や物流事業者等の関係者の協力を得つつ、その遵守に努めます。

「ホワイト物流」推進運動とは？

トラック運転者不足が深刻になっていることに対応し、国民生活や産業活動に必要な物流を安定的に確保するとともに、経済の成長に役立つことを目的として、以下に取り組む運動です。

1. トラック輸送の生産性の向上・物流の効率化
2. 女性や60代以上も働きやすい、より「ホワイト」な労働環境の実現

物流 2024 年問題対策

「物流 2024 年問題」とは、働き方改革関連法により、2024 年 4 月からトラックドライバーの時間

外労働時間が年間 960 時間に制限されたことに起因する、物流業界全体への影響を指します。

物流 2024 年問題とは

<主な背景と課題>

制限内容：トラック運転手の時間外労働が年間 960 時間に制限(休日労働含む)

背景：長時間労働・低賃金・人手不足の慢性化

物流への影響：輸送能力の 14%減(2030 年には 34%減の可能性)

考えられる社会的影響：商品配送の遅延、物流コストの上昇、消費者価格への影響

サンアロマーは、これらの課題について、3PL 委託会社の山九株式会社殿と共に、納品先との契約見直し(付帯作業の削減等)、モーダルシフト(鉄道・船舶)への転換を進めること等で対応しています。

今後もこれら課題についての対応を継続して行っていくことで、安定・確実な物流配送を維持し、お客様へ製品をお届けして参ります。

健康管理・メンタルヘルス

健康障害を防止し、快適な作業環境の形成を推進するとともに職場生活における心身両面の健康

を保持・増進するため次のような取り組みを行っています。

ラジオ体操の実施

健康づくりのためにラジオ体操の実施を推奨し、

各事業所でラジオ体操を行っています。

メンタルヘルス対策

全社で法律に基づくストレスチェックを実施しています。集団分析結果に基づく職場改善対策について、各事業所の安全衛生委員会で検討、実施され

ます。なお、会社全体に及ぶ改善については、本社の安全衛生委員会が主導して検討、実施しています。

インフルエンザ予防接種の推進

毎年、重症化リスクの軽減等のため、季節性インフルエンザの予防接種を実施しやすい環境を整え

ています。

受動喫煙防止対策

2020 年 4 月 1 日より改正健康増進法が施行され、設置基準に準拠した専用喫煙室および屋外喫煙所の運用を開始しております。また、サンアロマーでは禁煙計画を作成し、禁煙希望者への禁煙

支援やポスター等による禁煙の推進、2022 年 4 月からは「就業時間中禁煙」のテスト運用を開始しました。尚、「就業時間中禁煙」は 2023 年 4 月から正規運用として継続しております。

女性従業員の働く環境の改善

大分工場では、近年女性従業員が増加傾向にあります。しかし、製造現場に専用施設がなかったことから、2020 年に女性用更衣室と女性用トイレを設置するなど、女性従業員の働く環境の改善に努

めています。

川崎工場でも同様に、2024 年に製造現場建屋内に女性用更衣室を設置しています。

BCP(事業継続計画)の取り組み



サンアロマーでは、定期的に BCP の危機対応訓練を行っています。

BCP 訓練(情報公開対応訓練)

サンアロマーでは BCP 訓練の一つで企業のクライシス(災害、不祥事)が発生した際の情報公開対応の訓練を定期的に行っています。ステークホルダー

へ誤ったイメージを与えないために、速やかに適切な情報公開ができるよう工場での大規模災害が発生したという想定で模擬訓練を行いました。

総合防災訓練

2025 年 3 月に、株式会社レゾナック・ホールディングス リスクマネジメント部のサポートにより、シナリオ非開示型 BCP 訓練を実施しました。

訓練内容は、大分県地域に最大震度7の大地震が発生したことを想定し、災害発生時に初動として何を行わなければならないのかを考え、また初期情報がある程度収集できた段階で、MC メンバーが会社としての今後の対応、方針を検討し、決断をするといった模擬体験で、サンアロマーとしては初めての試みでした。

社長が不在で連絡が取れないという想定で、副社長をトップとする災害対策本部では活発な議論が行われ、いくつか課題や改善案が抽出することが

できました。

2025 年 9 月に第 2 回訓練を予定しております。



【訓練時の様子】

品質保証と製品安全管理



品質に関する基本方針

品質に関する基本方針

1. 品質は、サンアロマーの事業における本質であり、その継続的改善を通じてお客様の信頼を得る。
 2. 品質の尺度は、サンアロマーの提供する製品およびサービスに対するお客様の満足であり、お客様のニーズに合致していなければならない。
 3. 品質の管理は、製品の開発から、原材料の管理、製造、販売、物流を含めた全ての事業活動に亘るものである。
- サンアロマーは、この方針のもとで品質マネジメントの有効性を継続的に改善する。

品質保証

サンアロマーの「Excellent Company」に記載された「品質の良い製品と優れたサービスを提供する会社」にもある通り、企業活動の基軸として品質管理体制の向上に取り組み、お客様の期待に応える安定した品質とサービスの提供を目指しています。

そのために、「品質に関する基本方針」として品質をサンアロマーの事業における本質と据え、お客様の満足が品質の尺度と考えて、製造本部、品質保証室だけでなく全社が連携して、品質のさらなる安定と向上に向けて品質マネジメントシステムの継続的改善に取り組んでおります。

製品品質管理

品質保証体制

サンアロマーでは、品質の管理が全ての事業活動に亘るとの方針に基づいて、ISO9001:2015の認証を、工場のみならず研究開発本部や営業本部なども含めた全社で取得しております。

毎年、品質だけでなく全社マネジメントシステムの中でマネジメントレビューが実施され、品質管理活動、目標に対してのアウトプットが示されます。このアウトプットを踏まえた次年度の品質目標が立て

られて、継続的な改善が進められます。

また、サンアロマーはレゾナックグループの一員として、グループ内の品質に関する教育訓練を受講しております。2024年11月の品質月間には、品質コンプライアンスに関する認識確認と事例やこれに起因するトラブルを防止するための考え方について、全従業員がeラーニングを受講し、品質に関する知識やスキルの向上に取り組んでいます。

品質保証・管理の取り組み

サンアロマーでは、お客様での製品用途や使用分野に応じた製品リスクを評価し、それらに適したリスク管理を行い、お客様に安心してサンアロマー製品を使用いただけるよう努めております。

お客様のニーズに合致した安定した品質とサービスを提供できるよう、今後も引き続き、継続的改

善と適切なリスク管理を行っていきます。

製品試験成績表は、希望されるお客様に対して、出荷時にPDFファイルでメール送信しております。また、ご希望によってはFAXでの送信を行っています。

品質データ管理システム

品質保証および製品開発の試験データを自動的に取り込む「品質データ管理システム」を導入しています。これにより、物性測定データの誤転記、入力ミス、データ改ざんの防止を含む品質問題リスクの低減も図られ、また基礎データの収集の効率化により製品開発における物性予測の精度の向上が可能と

なりました。これらは、より良い製品のご提供を目指し実施しているものです。

また、パレット外観検査装置を大分・川崎両工場に導入するなど、人手に依存しない再現性の高い測定方法も追求しております。

製品安全管理

近年の化学物質管理への要求の高まりから、サンアロマー製品に対してもお客様から環境負荷物質の含有や法規適合性についてのお問い合わせが増加しております。

サンアロマーでは製品ごとに安全性と取り扱い方法等の情報を記載した Safety Data Sheet (SDS) と、国内外の法規適合性(化審法、労働安全衛生法、各国インベントリー登録、欧州 REACH、など)や含有化学物質等の情報を記載した Product Stewardship Bulletin(PSB)を準備し、サンアロマーのホームページでこれらの情報を公開しております。また、お客様ごとにご要望内容が異なるグリーン調達へのお問い合わせにも、個別に対応しております。

サンアロマーは、経済産業省が開発した、サプラ

イチェーンにおける、新たな製品含有化学物質情報の伝達スキームである

「chemSHERPA」(ケムシェルパ)に当初から賛同し、アーティクルマネジメント推進協議会(JAMP)における MSDSplus から chemSHERPA への移行については、完全移行時期(2018 年 4 月)に先駆けて完了しております。

今後も引き続き、化学物質に関する国内外の法規制の変更やお客様の動向を注視して、環境・安全・健康・法令遵守・お客様のニーズを考慮した製品安全管理を推進していきます。

TOPICS

製品安全管理の説明会の実施

様々な法規適合性、環境負荷物質の含有などの化学物質管理について、お客様でもあるパートナーの皆様へ説明を行いました。

食品接触用途における製品の安全性確認

サンアロマーでは、食品容器など食品と直接接触する用途に使用される製品について、消費者の安全を最優先に考え、関連法令および各種基準への適合性を厳格に確認しています。

該当製品については、用途に応じて「厚生労働省告示第 370 号」試験や「乳等省令(乳及び乳製品の成分規格等に関する省令)」の基準に適合していることを確認しています。これらの試験・基準は、食品と接触する材料の安全性を評価するために定め

られたものであり、サンアロマーでは第三者機関による試験結果や社内検証を通じて適合性を確保しています。

製品の安全性については、設計・開発段階から、食品接触用途に適した材料選定を行い、法令に基づいた安全性評価を実施しています。これにより、製品が市場に出る前の段階で、食品衛生上のリスクを排除する体制を整えています。

取り扱い化学物質の管理

サンアロマーで扱う化学物質については、サプライヤーから SDS を入手し、安全性評価を実施し、適正に管理しています。また事業所内で取り扱う際

のリスク評価を実施し、リスク低減のための必要な対策を講じ、作業者の安全を確保しています。

PRTR 対象物質の管理

サンアロマーで取り扱っている化学物質のうち、数種類が PRTR 法で定められた対象物質に該当します。対象物質については排出量・移動量のマテリアルバランスを把握しています。このうちノルマルヘキサンは法改正で 2010 年の使用分から報告義務対象物質となり、報告を行っています。また 1 トンを超えた一部添加剤も報告を行っています。他の

物質は取扱量が少なく(1 トン未満)、報告対象外でした。

PRTR 法とは？

有害性の恐れのある化学物質が、環境(大気・水・土壌)に排出された量および、廃棄物に含まれて事業所外に運び出された量を把握・集計・公表する仕組みのこと。

化学物質管理システム

近年、製品に含まれる化学物質の安全性が問われ、新たな化学物質使用の規制、国内外の関連法規の改定が増加しており、社内のデータ一元化、ヒューマンエラー防止、効率化、法令改正時の迅速な対

応を図るため、2021 年以降化学物質管理システムを導入しています。これにより、国内外の関連法規改定において、迅速且つ正確な判断と情報提供を行っています。

品質診断の受審

品質保証の仕組みについて、毎年、株式会社レゾナックの品質診断を受審しています。診断の結果は

良好であり、サンアロマーの品質に対しての取り組みが評価されています。

コンプレイン事例集発行による品質レベルの向上

クレーム・コンプレインの再発防止とお客様満足度および CX(Customer Experience の略で「顧客体験価値」のこと)向上を目的とした社内教育教材として「コンプレイン事例集」を編纂しました。

この事例集では、各コンプレイン事例について技術的な背景まで分かりやすく明確に解説しており、再発防止対策の妥当性確認や予防対策に非常に有効で、コンプレイン発生減少や、不適合製品発生防止に役立つものです。本事例集については、2020

年のレゾナックグループの品質保証責任者会議でベストプラクティスとして取り上げられた他、ISO9001 品質マネジメントシステムの第三者監査においても他社では見られない取り組み、充実点として評価されています。

現在、社内関係部門の教育資料としても活用されており、この事例内容を理解することにより、優れた製品・サービスを提供し、お客様の満足度の向上を目指しています。

品質クレーム件数

2024 年のサンアロマー基準による重大品質クレームの発生はありませんでした。

ここ数年、品質クレームの件数は低水準で推移しているものの、品質に対するお客様の要求も年々高まっていることから、今後 CX の観点を取り入れると共に、新たなプラント制御システムや品質欠陥の自動検知設備の導入を進めて品質不良の発生防

止、流出防止を図り、品質クレーム発生ゼロを目指します。

品質は、サンアロマーの事業活動においての本質であり、その継続的な改善を通じて、お客様をはじめ、全てのステークホルダーの皆様の信頼が得られるよう、今後もこのような活動を継続して取り組んでいきます。

サンアロマーの事業活動に関わるパートナー

サンアロマーでは、製品開発から原材料、製造、販売、物流を含めた様々な事業活動に関わるパートナー会社、パートナーの皆様とともに事業活動を行っています。

サンアロマーは、これからも全てのパートナーの皆様とともにお客様のもとへ製品をお届けしていきます。

CSR 調達

サンアロマーは、2018 年に「レゾナックグループサステナブル調達ガイドライン」を基にした CSR 調達活動を計画し、2019 年からこの計画に沿った活動を開始しています。

供給者監査は 2005 年より調達部門が実施しております。その内容は、サプライヤーの工場を訪問し、調達部門の視点で品質や購入品の安定供給等に関する確認を実施するもので、2024 年は供給者監査(現地監査)を 5 件実施しました。

また、2019 年からは CSR 調達の取り組みとして、サプライヤーへ CSR 質問票を送付し回答して

もらうことを行っています。これにより、サプライヤーの CSR への取り組み状況などを確認すると共に、上記ガイドラインを了知していただくことで、協働でガイドラインを遵守し、お互いの企業価値を向上していく意識につながることを期待しています。

2024 年は、供給者監査とは別の取り組みとしてサプライヤー5社に対して CSR 調達質問票を送付し、「レゾナックグループサステナブル調達ガイドライン」を共有、ガイドラインのご理解とご協力を要請しました。

紛争鉱物への取り組み

コンゴおよび隣接する国々で採掘される鉱物(スズ、タンタル、タングステン、金)は、これを購入することで現地の武装勢力の資金調達につながり、結果として地域の紛争に加担し、人権侵害、環境破壊を引き起こしているとして国際的に大きな問題となっています。レゾナックグループでは、責任ある鉱物イニシアチブ RMI(Responsible Minerals Initiative)に賛同しており、レゾナックグループの一員であるサンアロマーもこの考えに準拠し、RMI で認証された製錬所に限った鉱物調達を調達先(パートナー)の皆様へ推奨する共に、調達先の皆様のご協力を得て、毎年調査を行い、紛争鉱物を残留

していないことを確認しています。

また、「レゾナックグループ サステナブル調達ガイドライン」においても「コンフリクトフリー(紛争に関わらない)鉱物の調達におけるサプライチェーンの透明性を向上させ、責任ある材料、部品の調達を実践しなくてはなりません。」と記載されており、調達先に対してこれらを購入・使用しない取り組みを進めています。

昨今の「責任ある鉱物調達」に対する社会動向も踏まえ、上記 4 鉱物に加えて、コバルトとマイカ(天然雲母)についても同様の取り組みを行っています。

人権・労働慣行



人権の尊重

レゾナックグループは、国連グローバル・コンパクトが定める「人権の保護」、「不当な労働の排除」、「環境への対応」、「腐敗の防止」に関わる 4 分野 10 原則に賛同しています。「レゾナックグループ人権方針」においても事業活動を通じて社会課題

の解決に貢献していくことが定められております。

レゾナックグループであるサンアロマーにおいても、この原則、方針に準拠し、事業活動のあらゆる局面において人権を尊重するとともに、人権への負の影響の防止に努めています。

人権週間メッセージの配信

毎年 12 月の人権週間、12/10 の「世界人権デー(Human Rights Day)」に合わせて、CCQO から人権週間に向けたメッセージを全従業員に向

け発信し、人権について改めて考える機会としています。

人権週間に寄せて CCQO メッセージ(2024 年 12 月)

12 月 4 日から 12 月 10 日は人権週間です。この期間は、私たち一人ひとりが持つ基本的な権利と尊厳について改めて考え、互いに尊重し合う社会を目指す大切な機会です。私たちの社会はさまざまな背景や価値観を持つ人々で成り立っています。その中で、違いを受け入れ、理解し合うことが、安心して暮らせる環境づくりにつながります。「私たちの行動規範」第3章に「人権を尊重した経営」が謳われています。この人権週間の機会に今一度確認してみてください。

サンアロマーでは、人権を大切にするための取り組みの一つとして、内部通報制度を整えています。この制度は、パワハラやセクハラ、過重な労働環境など、人権を侵害する行為に対して行動を起こせる仕組みでもあります。

～中略～

もし人権侵害を見かけたら、「見て見ぬふり」をせず、ぜひ何らかのアクションを起こしてください。内部通報制度の利用はその一つの方法です。私たち一人ひとりの小さな行動が、より良い職場環境を作り上げる大きな力になります。

人権週間を機に、周囲の人々に対する思いやりと尊重の気持ちを改めて考え、皆で支え合える職場づくりを進めていきましょう。

CSR 本部長 兼 CCQO 中島 治継

人権教育

サンアロマーでは、共により良い社会をつくっていくビジネスパートナーやお客様、地域社会からの信頼を得るために、サンアロマー従業員一人ひとりが人権を尊重した行動がとれるように、全従業員に研修を通じた人権の社内浸透を図っています。

サンアロマーは、2015 年から外部講師による「企業に求められる人権」や、法務省の「主な人権課題 16 項目」を網羅する研修により社内浸透を図

てまいりました。

2020 年からは、今までの活動に加え、レゾナックグループとしての人権教育にも参加しています。研修に参加できなかった従業員にたいしては、後日自習および課題を実施することにより、全従業員への教育を完了しています。

今後も全社教育を行い、人権尊重の意識の向上に努めていきます。

- ・2022 年「私たちの行動規範」に人権方針を反映し、その浸透を図る研修
- ・2023 年「従業員アセスメント」実施と「ビジネスと人権」研修
- ・2024 年「ビジネスと人権 2023 基礎」研修

健康経営宣言

サンアロマーで働く従業員とその家族の心身の健康が経営の重要な基盤と考え、「従業員を元気にする！」を目標に働きやすく、働きがいのある環境を整備し、健康管理体制を構築しています。また疾病の予防や改善にとどまらず、レゾナックグループの一員として、従業員の健康意識(ヘルスリテラシー)の向上を目指します。

具体的には以下の取り組みを行っています。

- ・定期健康診断、婦人科がん検診、家族の生活習慣病検診
- ・専門ドックの受診環境の整備
- ・従業員自ら健康に取り組める KPI を設定し、

達成するなどの健康意識の促進

- ・「こころと身体の健康について」定期的な情報発信
- ・メンタルヘルス、ハラスメントの窓口を全従業員に周知し、安心して相談できる環境を整備

2021 年からは、「健康保持・増進プラン」として全従業員に個別に健康増進に関する活動、及び目標を設定してもらい、その達成に向けた取り組みを実施しています。各年の目標達成率は以下の表のとおりとなっております。2025 年度も引き続き実施していきます。

年度	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
「健康保持・増進プラン」 達成率(%)	70	64	66	63

健康経営優良法人 2025(中小規模法人部門)に認定されました！



サンアロマーは、経済産業省と日本健康会議が認定を行う「健康経営優良法人認定制度」において、「健康経営優良法人 2025(中小規模法人部門)」に 3 年連続で認定されました。

サンアロマーは、社員とその家族の心身の健康に

配慮した健康経営に取り組んでいます。このたびの認定を踏まえ、レゾナックグループの一員として、これからもヘルスリテラシーの向上を図っていきます。

「健康経営優良法人認定制度」とは？

地域の健康課題に即した取組や日本健康会議が進める健康増進の取組をもとに、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を顕彰する制度です。

従業員エンゲージメント調査実施

2024年に従業員エンゲージメントに関する調査を実施しました。本調査は、2017年に実施した「働きがい調査」と同様に、従業員のエンゲージメントを測り、今後の組織運営の改善につなげていくこ

とを目的とし、レゾナックグループの一員として実施しました。

この結果を受けて、本部毎に課題の抽出とその対策を行っております。

人材育成

研修体制として、全社教育を計画的に実施しております。例えば、全従業員が参加する品質教育、コンプライアンス教育、次世代育成プログラム、指名

型派遣研修である GLOBIS、自己啓発として、eラーニング、通信教育、語学補助などを行っています。

働き方改革への取り組み

サンアロマーでは「柔軟でメリハリのある効率的な働き方をより一層可能とする」とともに、「多様化する従業員の生活上のニーズに応える」ため、コア

タイムなしのフレックスタイム制の導入と、在宅勤務制度をより活用しやすくする運用を実施しています。

ダイバーシティ&インクルージョンの推進活動



サンアロマーは、レゾナックグループの一員として、ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)の推進に取り組んでいます。

＜仕事と家庭の両立支援＞

「柔軟でメリハリのある効率的な働き方をより一層可能とする」とともに、「多様化する従業員の生活上のニーズに応える」ため、育児・介護休業法の各

種制度に関する法定を上回る制度や、フレックスタイム、テレワーク等の柔軟な働き方に資する制度、積立休暇利用制度(私傷病、介護、子の学校行事、臨時休校、特定不妊治療、他)等を整備しています。

次世代育成支援対策推進法に基づく子育てに関する「一般事業主行動計画」は厚生労働省「両立支援のひろば」に掲載している行動計画を以下にご紹介します。

サンアロマー株式会社行動計画(第3期)

社員がその能力を発揮し、仕事と生活の調和を図り働きやすい雇用環境の整備を行うため、次のように行動計画を策定する。

1、計画期間 2021年7月1日～2025年12月31日

2、内容

＜目標1＞

・産前産後休業や育児休業、育児休業給付、育休中の社会保険料免除など制度の周知や情報提供を行う。

＜対策＞

2022年1月～ 社内報、イントラネットへの掲示による従業員への周知

＜目標2＞

・妊娠中の女性従業員の母性健康管理についてのパンフレットを作成して従業員に配布し、制度の周知を図る。

＜対策＞

2023年1月～ 社内報、イントラネットへの掲示による従業員への周知

＜目標3＞

・妊娠中や産休・育休復帰後の女性従業員のための相談窓口を設置する。

＜対策＞

2024年1月～ 社内報、イントラネットへの掲示による従業員への周知

CX 活動

CX とは、Customer Experience の略で、「顧客経験価値」や「顧客体験価値」という概念で用いられています。

サンアロマーでは、このCXの最大化を目指しており、一人ひとりが自分自身のお客様(= Customer)に対して、より良いサービスを提供し、「あなたに頼んでよかった！」と思う経験(= Experience)をしていただくことで、次回もあなたに頼みたいと思われるような関係を築き、お客様から選んでいただける企業を目指しています。また、CXにおける「Customer」は社内外のどちらにも存在しており、全従業員がCXを意識し業務を行うことで、企業全体としてのサービス向上になり、それが最終的に会社の利益へとつながり、全ステークホルダーへ還元されることを期待しています。

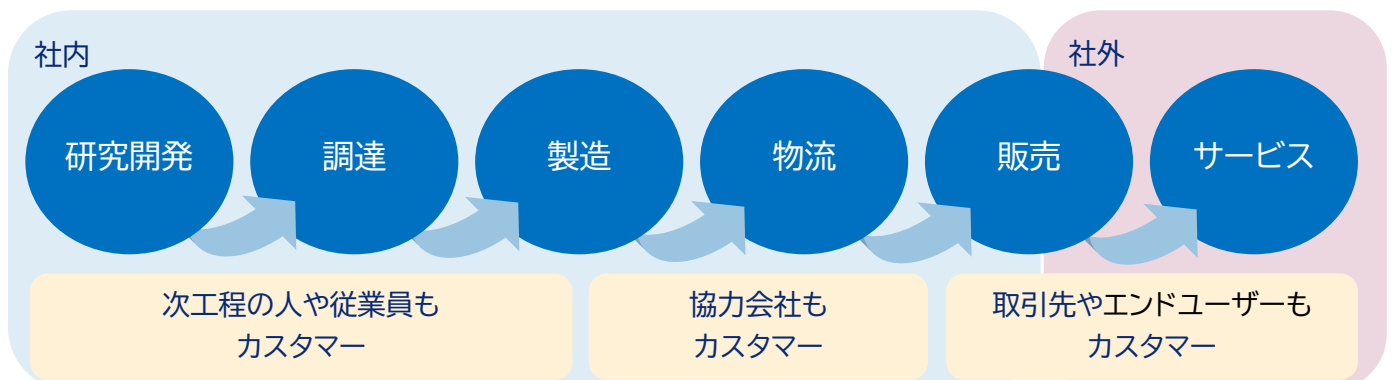
2020 年から社内周知活動を開始し、動画視聴や職場内ディスカッション、全従業員を対象としたオンライン研修などを実施し、従業員の CX 最大化

や、理解を深める教育活動を行っています。

また、レゾナックグループの 2024 年度の「AHA!(Awards of Harmony, アハ!)2024」(レゾナックグループ計 42 拠点、国内グループ会社 22 社、海外グループ会社 58 社から、延べ約 12,200 人が参加した CX 活動発表会)において、サンアロマーからエントリーした『人材育成_デジタル技術を活用した学び放題の社内教育講座「クオリアスクール」』が「銀賞」を受賞しました。本取り組みは、CX の視点を踏まえつつ、社員一人ひとりの知識レベルの向上を目的とし、社内教育における新たな形を提示したものです。

この成果は、チームメンバーの不断の努力と工夫はもちろん、教育講座の講師の工夫や、従業員が継続的に参加したことにより実現したものであり、社内全体の学びの環境を大きく向上させた点で、極めて意義深いものとなりました。

今後とも CX の視点を大切にしながら、引き続き活動を行っていきます。



テレワーク先駆者百選に選定されました！



サンアロマーは 2024 年 12 月、総務省が実施している「テレワーク先駆者百選」においてテレワークの導入・活用に十分な実績を持つ企業として選定されました。

サンアロマーでは、2009 年に BCP 対策としてリモートワーク環境を整備しており、2018 年には働き方改革の一環として育児中の従業員および介護を行っている従業員を対象とした在宅勤務制度を導入し、運用してまいりました。2021 年 9 月には多様な働き方の選択肢の一つとして、また、働

きがいの向上に向けた取り組みを推進するため、従来の在宅勤務制度からさらに対象者、就業場所、日数などを拡大したテレワーク規程を整備いたしました。

サンアロマーは今後もテレワークの活用を一層進めることによって、従業員一人ひとりがやりがいや充実感を持ちながら働き、多様な働き方が実現できる環境づくり、仕組みづくりに取り組んで参ります。

「テレワーク先駆者百選」とは？

総務省が、テレワークの普及促進を目的としてテレワークの導入・活用を進めている企業・団体を「テレワーク先駆者」とし、その中から十分な実績を持つ企業等を「テレワーク先駆者百選」として公表するものです。

会社情報

会社情報

会社概要

社名	サンアロマー株式会社	従業員数	約 225 名
英文社名	SunAllomer Ltd.	年間売上	745 億円(2024 年実績)
設立	1999 年 6 月 1 日	生産能力	408,000T/年
本社所在地	〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目 2 番 24 号 (天王洲セントラルタワー27 階)	役員	代表取締役社長 高岡 博
資本金	62 億円		代表取締役副社長 安村 巖
代表者	代表取締役社長 高岡 博		取締役(常勤) 坂本 浩基
事業内容	合成樹脂の製造・加工及び販売		取締役 福田 浩嗣
決算日	12 月 31 日		取締役 橋田 裕一
株主	クラサスケミカル株式会社 (株式会社レゾナックホールディングス 100%子会社) ENEOS 株式会社		取締役 矢崎 靖典
			監査役(常勤) 富田 博之
		監査役 横山 和生	
		監査役 島田 武浩	
		(2025 年 4 月 1 日現在)	

沿革

1955 年	日本石油(株)の全額出資により、日本石油化学(株)設立、石油化学事業に進出
1957 年	昭和電工(株)、石油化学事業に進出 日本石油化学(株)エチレン設備完成、川崎コンビナート操業開始
1969 年	昭和電工(株)大分石油化学コンビナート竣工、12 月ポリプロピレン設備完成、操業開始
1989 年	日本石油化学(株)コンビナートに UPP(浮島ポリプロ(株))のポリプロピレン設備完成
1993 年	昭和電工(株)大分・気相法ポリプロピレン 設備完成
1995 年	JPO(日本ポリオレフィン(株))設立、昭和電工(株)・日本石油化学(株)から事業譲渡
1996 年	JPO と Montell(現 LyondellBasell)が共同で MJC(モンテル・ジェイピーオー(株))設立、JPO から MJC に自動車用途ポリプロピレン事業を譲渡
1999 年	MSS(モンテル・エスディーケー・サンライズ(株))設立、JPO からポリプロピレン事業を譲渡
2000 年	大林産業(株)と共同で韓国にポリミレイ社設立
2001 年	MSS からサンアロマー(株)へ社名変更
2002 年	サンアロマー(株)が日本石油化学(株)から UPP(浮島ポリプロ(株))株式を全株譲渡
2007 年	UPP を解散し、サンアロマー(株)に事業譲渡
2010 年	生産能力を約6万トン増強、新プロセス技術の導入
2016 年	LyondellBasell が保有する全株式を昭和電工(株)(現(株)レゾナック)と JX エネルギー(株)(現 ENEOS(株))が取得
2023 年	昭和電工株式会社が持株会社制に移行するに伴い、昭和電工株式会社が保有する全株式を株式会社レゾナックに移管
2025 年	株式会社レゾナックの石油化学事業分社化に伴い、株式会社レゾナックが保有する全株式を分割新スクラサケミカル株式会社に移管

サンアロマー所在地



所在地一覧

本社	〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目 2 番 24 号 天王洲セントラルタワー27 階 電話:03(5781)5608 FAX:03(5781)5611
大阪支店	〒530-0017 大阪府大阪市北区角田町 8 番 1 号 大阪梅田ツインタワーズ・ノース 19 階 リージャス大阪梅田ツインタワーズノースビジネスセンター内 電話:06(7668)8573 FAX:03(6368)6045 ※大阪支店専用番号です
名古屋事務所	〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅 2-45-14 東進名駅ビル 4F リージャス名古屋駅東口ビジネスセンター内 電話:052(856)2164 FAX:03(6368)6044 ※名古屋事務所専用番号です
研究開発本部	〒210-0863 川崎市川崎区夜光二丁目 3 番 2 号 ENEOS 株式会社 川崎製油所 川崎地区(塩浜)内 電話:044(276)3562 FAX:044(266)9432
川崎工場	〒210-0865 川崎市川崎区千鳥町 13 番 1 号 ENEOS 株式会社 川崎製油所 川崎地区(千鳥)内 電話:044(276)3675 FAX:044(276)3560
大分工場	〒870-0111 大分県大分市大字中ノ洲 2 番地 大分石油化学コンビナート 電話:097(521)5125 FAX:097(521)5071

組織図



財務・非財務データ

財務データ

財務データ	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
資本金	62 億円	62 億円	62 億円	62 億円	62 億
決算日	12 月 31 日	12 月 31 日	12 月 31 日	12 月 31 日	12 月 31 日
年間売上	486 億円	574 億円	731 億円	715 億円	745 億円
生産能力	408,000T/年	408,000T/年	408,000T/年	408,000T/年	408,000T/年

非財務データ

環境		2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
GHG 排出量(千t) ^{※1}		79	80	75	71	65
エネルギー消費量 ^{※1} ^{※2}	総消費量(千 GJ)	1,566	1,597	1,582	1,358	1,191
	電力における再生可能エネルギー割合(%)	—	—	—	14.1	18.2
CO ₂ 排出量 ^{※1}	Scope1の総排出量(千t-CO ₂)	0	0	0	0	0
	Scope2の総排出量(千t-CO ₂)	79	80	75	71	65
PRTR 法対象物質の総排出量 ^{※1} (t)		77.0	6.7	42.5	5.6	7.3
VOC 排出量 ^{※1} (t)		125.3	8.8	68.1	6.7	9.8
水の総消費量	水使用量(千m ³)	533.8	535.8	545.6	538.8	530.3
	排水量(千m ³)	571.8	595.8	545.2	564.6	523.5
	循環冷却水使用量(千m ³)	40,349	43,806	40,713	42,455	42,236
産業廃棄物発生量	有害(特定有害産業廃棄物)(t)	—	0.00	0.00	0.36	0.35
	非有害(t)	—	209	210	149	153
	回収再利用(t)	—	209	208	144	150
産業廃棄物最終埋立処分率(%)		0.00	0.00	0.01	0.04	0.07
廃プラスチック有効利用率(%)		99.1	99.2	99.2	99.0	97.9
環境投資金額(百万円)		143.3	0.0	9.4	9.9	9.9

※1 各年 4 月から翌年 3 月のデータです。

※2 2023 年実績からは改正省エネ法の基準に従い算出した結果となります。

非財務データ

労働と人権		2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
労働災害 インシデント (従業員,常駐・非常 駐協力会社員)	件数(不休以上)(件)	0	0	1	3	2
	全度数率	0.00	0.00	1.03	3.65	2.26
	強度率	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00
	損失日数	0	0	0	19	0
従業員数(人)		217	222	225	232	228
女性従業員の割合(%)		12.7	14.1	15.0	14.9	15.8
管理職に占める女性従業員の割合 ^{※注} (%)		—	—	—	10.4	9.8
男性従業員の育児休業取得率(%) (正社員)		—	—	—	67	25
人権に関する研修を受けた従業員の割合(%)		100	100	100	100	100
倫理		2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
倫理に関する研修を受けた従業員の割合(%)		100	100	100	100	100
内部通報に関する件数(件)		0	0	0	1	1
情報セキュリティインシデント(件)		0	0	0	0	0
持続可能な資材調達		2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
紛争鉱物の情報(CMRT、EMRT)入手率(%)		100	100	100	100	100
その他		2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
品質クレーム件数(サンアロマー基準)(件)		1	0	1	0	0

※注) 1 女性活躍推進法および育児・介護休業法に基づく情報公表を行っていない指標については「—」と記載しております。

2 女性活躍推進法の規定に基づき算出したものであります。

3 管理職に占める女性労働者の割合は 2024 年 11 月時点の実績です。



SunAllomer Ltd.

サンアロマー株式会社

東京都品川区東品川二丁目2番 24 号

天王洲セントラルタワー 27 階

〒140-0002

<https://www.sunallomer.co.jp/>

お問い合わせ先

CSR 本部 環境安全・CSR 推進室

TEL 03-5781-5617

FAX 03-5781-5611